

健康とびしま21 第2次計画
中間評価

平成30年3月
飛島村

目次

第1章 健康とびしま21 第2次計画の概要

- 1. 基本的な方向性と位置づけ 1
- 2. 基本目標・基本方針と目標項目 1

第2章 中間評価

- 1. 中間評価の目的 2
- 2. 中間評価の方法 2
- 3. 目標達成状況 3
- 4. 指標の見直し 4
- 5. 今後の推進方策 5

第3章 施策の各指標の評価

- 1. 健康長寿村の実現(健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現) 6
- 2. 生涯を通じた健康づくり 7
- 3. 疾病の発症予防及び重症化予防
 - (1) がん 8
 - (2) 循環器疾患 10
 - (3) 糖尿病 12
 - (4) COPD (慢性閉塞性肺疾患) 14
 - (5) 歯科疾患 15
- 4. 生活習慣の見直し
 - (1) 栄養・食生活 (第2次飛島村食育推進計画) 16
 - (2) 身体活動・運動 21
 - (3) 休養・こころの健康 24
 - (4) 喫煙 27
 - (5) 飲酒 29
 - (6) 歯・口腔の健康 (飛島村歯科口腔保健基本計画) 32
- 5. 社会で支える健康づくり 34

第4章 健やか親子21（第2次）

1 切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策	35
2 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策	37
3 子供の健やかな成長を見守り育む地域づくり	38
4 育てにくさを感じる親に寄り添う支援	39
5 妊娠期からの児童虐待対策	40

資料編

1. 飛島村日本一健康長寿村研究会調査概要	42
2. オリジナル体操（キラリとびしまのびのび体操）創作・普及活動	43
3. すこやかカレンダー・広報とびしま記事一覧	47
4. 飛島村民の健康等の状況（衛生統計資料）	49
5. 施策の各指標の評価一覧	53
6. 健康とびしま21計画策定委員会（保健対策推進協議会）委員名簿	59

第1章 健康とびしま21 第2次計画の概要

1. 基本的な方向性と位置づけ

飛島村では、「村民誰もが、健康で安らかな長寿を楽しみ、皆で支え合う豊かな村づくり」をめざし、平成3年から「日本一の健康長寿村づくり」事業として、保健事業だけでなく、福祉や介護、環境づくり等、村独自で主要施策として取り組んできました。

健康とびしま21 第2次計画は、国や県の健康づくり施策「健康日本21（第2次）」「健康日本21 あいち新計画」に準じ、日本一健康長寿村づくり事業の一環として策定されています。本計画では、基本目標に「健康長寿村の実現（健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現）」を掲げ、目標達成のための基本方針として「(I) 生涯を通じた健康づくり」「(II) 疾病の発症予防及び重症化予防」「(III) 生活習慣の見直し」、「(IV) 社会で支える健康づくり」の4つを掲げ推進します。

また、本計画は、子どもから高齢者まで保健福祉に関わる分野を中心とした、総合的かつ包括的な村づくりの実現に向け、下記計画と調和や連携、整合性のとれたものとなるよう進めていきます。

- ① 地域福祉計画・地域福祉活動計画
- ② 障害福祉計画
- ③ 子ども・子育て支援事業計画
- ④ 高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画
- ⑤ 第2期国民健康保険データヘルス計画
- ⑥ 第3期特定健康診査等実施計画

これらを一体的に策定・評価等を行い、整合性を取ることでより一体的な村の保健福祉行政が推進されるものとなります。

2. 基本目標・基本方針と目標項目

基本目標と基本方針		目標項目数
基本目標	健康長寿村の実現(健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現)	1
基本方針 (I)	生涯を通じた健康づくり	1
基本方針 (II)	疾病の発症予防及び重症化予防	40
	① がん	5
	② 循環器疾患	13
	③ 糖尿病	11(再掲4)
	④ COPD(慢性閉塞性肺疾患)	6
	⑤ 歯科疾患	5
基本方針 (III)	生活習慣の見直し	43
	① 栄養・食生活	10(再掲4)
	② 身体活動・運動	9(再掲2)
	③ 休養・こころの健康	7
	④ 喫煙	8(再掲2)
	⑤ 飲酒	7
	⑥ 歯・口腔の健康	2
基本方針 (IV)	社会で支える健康づくり	2

●全87項目（再掲12項目）

第2章 中間評価

1. 中間評価の目的

飛島村では、平成27年度から平成36年度までの10年間を計画期間とする「健康とびしま21 第2次計画」について、本年度（平成29年度）、中間評価を実施しました。

国や県の健康増進計画である「健康日本21（第2次）」「健康日本21 あいち新計画」は平成25年度から平成34年度までの10年間を計画期間として策定されており、計画期間の最終年度である平成34年度に最終評価を行います。また、中間年度である平成29年度には各目標項目の中間評価を行い、必要に応じ内容を見直し今後取り組むべき健康施策を再検討することとしています。本村においても国や県の動向を踏まえ、村の現状に即し見直しをおこない、整合性を取ることで、より良い健康施策の推進をすることを目的としました。

また今回の中間評価では、これまでの推進活動の状況や成果について分析を行うとともに、飛島村日本一健康長寿村調査研究（以下、「調査研究」と記す。）において、明らかとなった住民の意見・ニーズ結果も加味し、有識者の助言等を踏まえ、今後の方向性や効果的な取り組みにより、飛島村における健康づくり事業のより一層の推進を図ることをとしました。

2. 中間評価の方法

○健康とびしま21 第2次計画では、「健康長寿村の実現」をめざし、87項目の指標（再掲12項目）を設定しています。

今回の中間評価では、各指標の達成状況を把握するため、今年度（平成29年度）、調査研究で実施した全住民への健康調査の他、グループインタビューによるニーズ調査、有識者への訪問調査等を実施しました。

○判定にあたっては、その調査結果や、国・県の統計資料、特定健診保健指導実施結果報告、特定健診結果集計等に基づき、ベースライン値（26年度最終値）と、直近値を比較し、達成率を算出し、下記の判定基準により判定を行いました。

【判定基準】

区分	判定基準
A	目標を達成 [達成率 100%以上] 又は、著しく改善
B	策定時より改善 [達成率 10%以上 100%未満]
C	変化なし [達成率 -10%以上 10%未満]
D	策定時より悪化 [達成率 -10%未満]
—	判定ができない

$$\text{達成率 (\%)} = \frac{\text{直近値} - \text{ベースライン値}}{\text{目標値} - \text{ベースライン値}} \times 100$$

※上記の計算式で達成率を算出し、上記基準により判定。

ただし、値に変動があり、一時的に目標値を上回った指標は変化なし（C判定）とした。

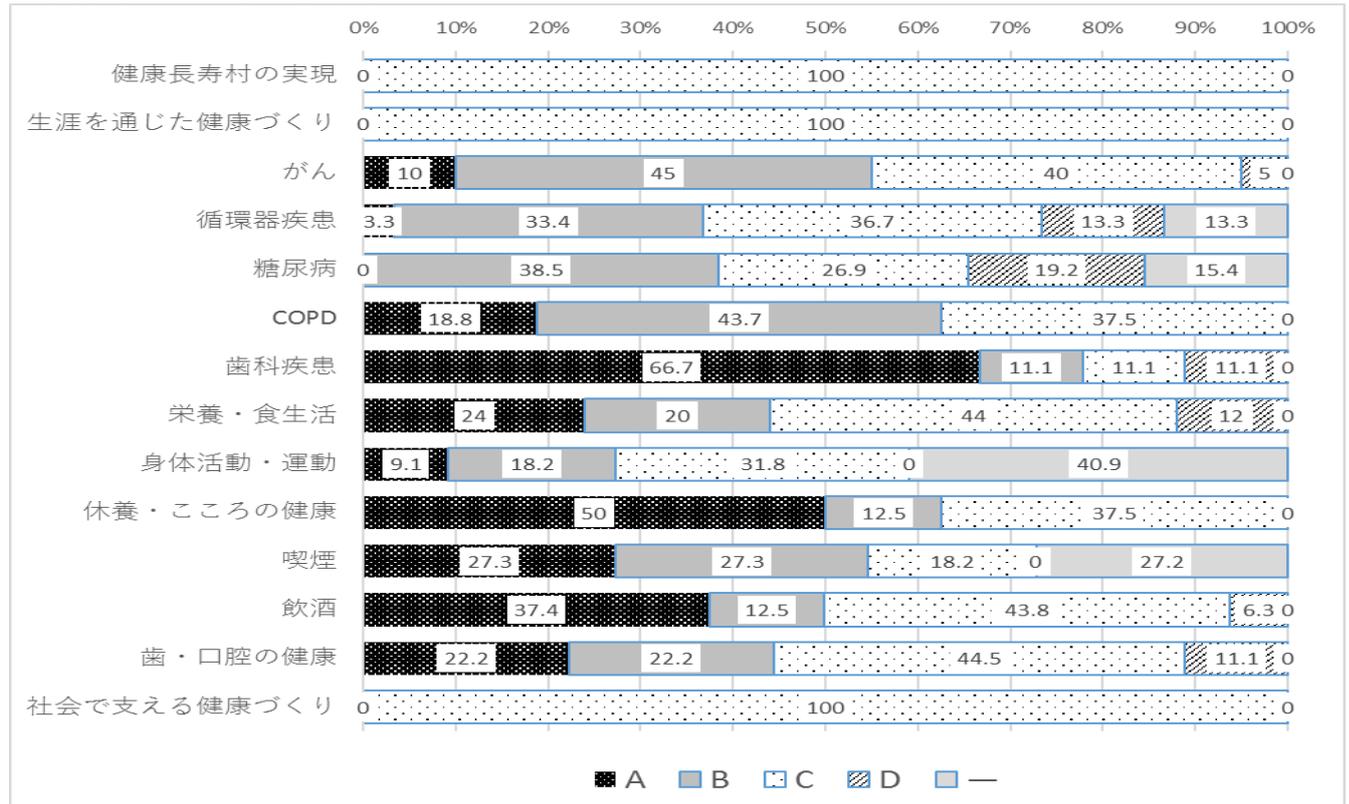
また、分母が少ないことで、1人の占める割合の影響が大きい場合は状況に応じ判定を調整した。

3. 目標達成状況

基本目標と基本方針	指標数	指標の判定 () は%				
		A	B	C	D	—
基本目標 健康長寿村の実現 (健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現)	1	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)
基本方針 (Ⅰ) 生涯を通じた健康づくり	1	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)
基本方針 (Ⅱ) 疾病の発症予防及び重症化予防	101	12 (11.9)	37 (36.6)	33 (32.7)	11 (10.9)	8 (7.9)
① がん	20	2 (10.0)	9 (45.0)	8 (40.0)	1 (5.0)	0 (5.0)
② 循環器疾患	30	1 (3.3)	10 (33.4)	11 (36.7)	4 (13.3)	4 (13.3)
③ 糖尿病	26	0 (0.0)	10 (38.5)	7 (26.9)	5 (19.2)	4 (15.4)
④ COPD (慢性閉塞性肺疾患)	16	3 (18.8)	7 (43.7)	6 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
⑤ 歯科疾患	9	6 (66.7)	1 (11.1)	1 (11.1)	1 (11.1)	0 (0.0)
基本方針 (Ⅲ) 生活習慣の見直し	102	26 (25.5)	20 (19.6)	36 (35.3)	5 (4.9)	15 (14.7)
① 栄養・食生活	25	6 (24.0)	5 (20.0)	11 (44.0)	3 (12.0)	0 (0.0)
② 身体活動・運動	22	2 (9.1)	4 (18.2)	7 (31.8)	0 (0.0)	9 (40.9)
③ 休養・こころの健康	8	4 (50.0)	1 (12.5)	3 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
④ 喫煙	22	6 (27.3)	6 (27.3)	4 (18.2)	0 (0.0)	6 (27.2)
⑤ 飲酒	16	6 (37.4)	2 (12.5)	7 (43.8)	1 (6.3)	0 (0.0)
⑥ 歯・口腔の健康	9	2 (22.2)	2 (22.2)	4 (44.5)	1 (11.1)	0 (0.0)
基本方針 (Ⅳ) 社会で支える健康づくり	9	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100)	0 (0.0)	0 (0.0)

※判定保留・判定不能は「—」で記載

○各分野別の目標達成状況



4. 指標の見直し

区分	該当指標	見直しの内容
追加する指標	脂肪の多い食品を控えめにしている人の割合	20～59歳を指標として追加
	とびしま健康マイレージを知っている人の割合	事業開始に伴い指標として追加 年代ごとに目標値を設定
	飛島村オリジナル体操である「キラリとびしまのびのび体操」を知っている人の割合	普及事業開始に伴い指標として追加 年代ごとの目標値を設定
	飛島村オリジナル体操である「キラリとびしまのびのび体操」の実施率（3か月に1回以上）	普及事業開始に伴い指標として追加 年代ごとの目標値を設定
変更する指標	子育て中の過程における同居家族の喫煙者の割合	3.4か月：保護者→父親・母親 1歳6か月児：保護者→父親・母親 3歳児：保護者→父親・母親
目標値を変更する指標	定期的ながん検診を受けている人の割合	60歳以上：50%→60%
	たばこを吸っている人の割合	60歳以上女性：2.7%→2.5%
	塩分を控えめにしている人を増やす	20～59歳：70%→20% 60歳以上：85%→42%
	ストレス解消法のない人	20～59歳：6.0%以下→3.5%以下

5. 今後の推進方策

【重点施策】

(1) 糖尿病重症化予防対策

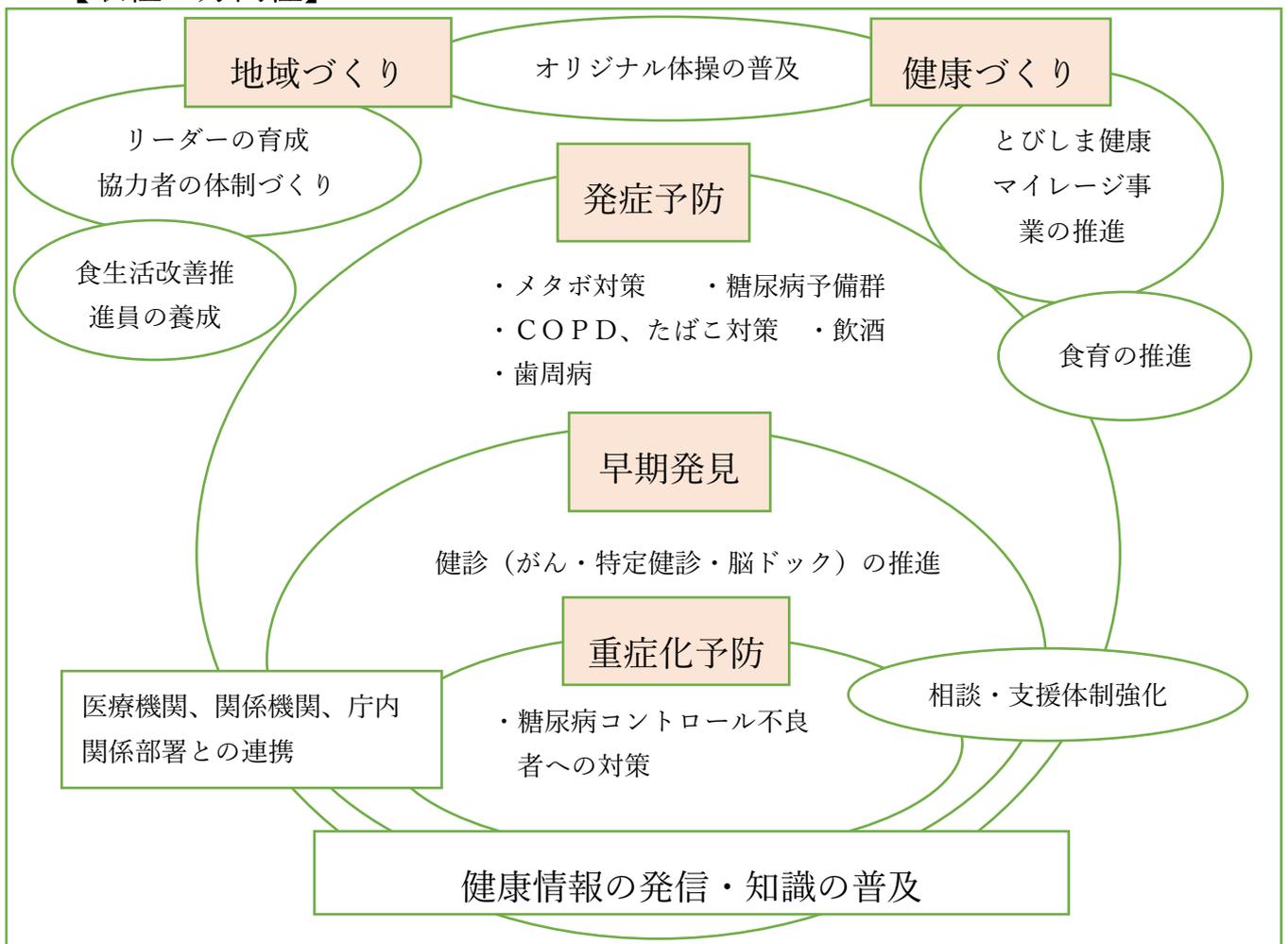
- ①治療中のコントロール不良者、糖尿病予備群へのアプローチ
- ②医療機関との連携強化

(2) オリジナル体操の普及・定着による健康づくり活動の推進及び地域づくり

- ①地域づくりの推進
- ②リーダーの育成

(3) 生涯を通じた生活習慣病予防に関する普及啓発及び関係機関との連携強化

【取組の方向性】



【今後の評価】

平成 32 年、35 年に評価を行い必要に応じて内容の見直しを行います。

第3章 施策の各指標の評価

1. 健康長寿村の実現（健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現）

基本目標である「健康長寿村の実現 ～健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現～」を図るため、4つの基本目標を掲げ、「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を図り、村民誰もが、健康で安らかな長寿を楽しみ、皆で支え合う豊かな村づくり」を目指します。

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
要介護認定（要介護度2～5）を受けていない人の割合（第1号保険者）	—	89.3%	H25	90.0%	H28	増加傾向	C

・前回と比較すると増加傾向にありますが、年によって変動があり現時点では判定がむずかしい状況です。

《これまでの取組》

- ・住民と協働で健康とびしま21第2次計画の推進を図るため、すこやかカレンダー等で広く住民に周知。
- ・保健事業、介護予防事業、国民健康保険における保健事業を一体的に実施し、連携した事業展開を実践。
- ・住民リーダー（スポーツ推進委員・食生活改善推進員）によるオリジナル体操の創作・普及活動により、世代間交流を図るとともに健康意識の高い地域づくりへの取組み。
- ・とびしま健康マイレージ事業を開始し、個人の健康づくり・生活習慣改善への取組への意識付けや継続を支援。
- ・敬老運動実践室における個別支援や、介護予防事業の充実により、高齢者健康づくり支援体制の強化

《主な課題》

- ・生活環境や、個人の特性により健康情報を入手しにくい人がいる。
- ・住民リーダー等の居住地区の偏りにより、地域での健康づくり活動に格差が生まれつつある。
- ・敬老センター、すこやかセンター等を利用する機会の少ない人は、とびしま健康マイレージ事業への参加者が少ない。

《今後の取組と方向性》

- ・性、年代、生活環境等、個人の特性に応じた健康情報等の提供手段の検討。
- ・地域でのオリジナル体操の普及・定着により、健康づくり意識の向上。
- ・住民リーダー及び協力者の育成及び体制づくり
- ・関係機関との連携により、とびしま健康マイレージ事業の活性化

2. 生涯を通じた健康づくり

子どもの頃から高齢期に至るまで、すべての世代、すべての村民の生涯を通じた健康づくりの取り組みを推進します。

《指標の状況》

指 標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
健康に気を付ける人の割合（20歳以上）	—	81.4%	H26	81.1%	H29	85.0%	C
とびしま健康マイレージを知っている人の割合	12～19歳	—	—	7.9%	H29	30%	—
	20～59歳	—	—	20.8%	H29	30%	—
	60歳以上	—	—	21.7%	H29	30%	—
飛島村オリジナル体操である「キラリとびしまのびのび体操」は知っていますか	12～19歳	—	—	71.6%	H29	80%	—
	20～59歳	—	—	57.8%		60%	—
	60歳以上	—	—	60.6%		65%	—

・健康に気を付ける人の割合の評価は「変化なし」であり、目標値には達成していない状況です。

・「とびしま健康マイレージ」、「飛島村オリジナル体操」の認知度を指標に追加しました。

《これまでの取組》

- ・オリジナル体操を活用した地域づくりの推進、リーダーの育成のため、スポーツ推進委員、食生活改善推進員、生涯学習(スポーツ)推進員合同で、月1回の定例会を実施。
- ・オリジナル体操の普及活動の推進（P45参照）
- ・とびしま健康マイレージ事業による健康づくりの推進
- ・健康推進委員による地域への健康情報の提供
- ・健康かるてシステムの導入により健康管理情報を活用し、すこやかカレンダー・広報での情報提供

《主な課題》

- ・とびしま健康マイレージは、12～19歳は28年度対象外であったため、認知度が低い。
- ・オリジナル体操の認知度は、20～59歳が他の世代に比べて低い。

《今後の取組と方向性》

- ・多世代交流、家族間交流促進事業の展開による地域での健康づくり強化支援
- ・関係機関と連携し、とびしま健康マイレージ事業の普及強化
- ・様々な機会をとらえ、働く世代へのオリジナル体操の普及を実施

3 疾病の発症予防及び重症化予防

疾病の発症を予防し、合併症の予防・症状の進展などの重症化予防に重点を置いた対策を推進します。

(1) がん

《指標の状況》

指 標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
市町別標準化死亡比 (バイズ推定値)	男性	95.8	H18~22	97.8	H23~27	90.0 以下	C
	女性	94.6		95.0			C
子宮がん検診受診率の向上	—	39.9%	H25	42.5%	H28	50.0%	B
乳がん検診受診率向上	—	48.6%	H25	54.2%	H28	60.0%	C
定期的ながん検診を受けている人の割合の向上	30~59 歳	52.3%	H26	54.8%	H29	60.0%	B
	60 歳以上	54.3%		53.6%		60.0%	C
胃がん検診の精検受診率の向上	—	76.6%	H25	70.9%	H28	95.0%	D
大腸がん検診精検受診率の向上	—	55.6%	H25	57.1%	H28	90.0%	C
たばこを吸っている人の割合の減少 (20~59 歳)	全体	18.5%	H26	18.5%	H28	15.0%以下	C
	男性	33.0%		31.9%		28.0%以下	B
	女性	5.1%		5.7%		5.0%以下	C
たばこを吸っている人の割合の減少 (60 歳以上)	全体	14.1%	H26	13.4%	H28	13.0%以下	B
	男性	26.8%		25.0%		24.0%以下	B
	女性	2.6%		2.5%		2.5%以下	A
たばこを習慣的に吸っている人の割合	全体	16.2%	H25	15.4%	H28	13.0%以下	B
	男性	27.7%		27.7%		24.0%以下	C
	女性	5%		4.1%		5.0%以下	A
がんにならないために心がけている人の増加 (20~59 歳)	全体	25.7%	H26	28.9%	H28	50.0%	B
	男性	20.0%		23.1%		40.0%	B
	女性	31.3%		34.5%		60.0%	B

- ・子宮がん・乳がん検診の受診率は、策定時に比べて増加しています。ただし、年度により推定対象者数に違いがあり、乳がん検診では受診者数は横ばいとなっています。
- ・20~59 歳のがんにならないために心がけている人の割合では、策定時に比べ男女ともに増加しています。
- ・大腸がん検診の精検受診率は策定時に比べ向上しましたが、胃がん検診の精検受診率は策定時に比べ減少しています。
- ・たばこを習慣的に吸っている人の割合は、男性では横ばい、女性では減少しています。

《これまでの取組》

- ・ 広報及びすこやかカレンダーに「がんの発症予防のための生活習慣」「がん検診」についての情報を掲載。
- ・ 健診案内を対象者すべてに個別通知。
- ・ 医療機関の個別検診では「がん検診等受診券」の配布により、事前予約不要とし利便性が向上。
- ・ 20歳代女性の子宮がん検診受診率向上のため、受診啓発及び20歳・25歳の節目検診の導入。
- ・ 健診結果送付時にパンフレットを同封し、精検の必要性を情報提供。精検未報告者に追跡調査を実施。未受診者には、電話等にて精検受診を勧奨
- ・ がん検診手帳の発行（子宮がん・乳がん・大腸がん）。
- ・ 協会けんぽ（全国健康保険協会愛知支部）と協同し、がん検診案内を通知。

《主な課題》

- ・ がん検診の結果、要精密検査となった人の精検受診率の向上

《今後の取組と方向性》

- ・ 正しい検診の受け方に関する知識の普及。
- ・ 初回受診者へのアプローチ。
- ・ 精検の受け方に関する情報提供。
- ・ 母子保健事業と連携し、がん及び発がんリスクとなる喫煙に対する知識の普及・啓発。

(2) 循環器疾患

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
脳血管疾患の標準化死亡比の減少 (ベイズ推定値)	男性	93.3	H18~22	96.3	H23~27	90.0以下	C
	女性	112.5		110.6		100.0以下	C
虚血性心疾患の標準化死亡比の減少 (ベイズ推定値)	男性	98.4	H18~22	92.5	H23~27	90.0以下	B
	女性	98.4		101.2			C
I度高血圧(収縮期血圧140~159mm/Hgまたは拡張期血圧90~99mm/Hg)以上の人の割合	—	22.7%	H25	16.1%	H28	18.0%以下	A
LDLコレステロール140mg/dl以上の人の割合の減少(服薬者含む)	—	21.3%	H25	24.2%	H28	18.0%以下	C
メタボリックシンドローム該当者の減少	男性	22.1%	H25	22.3%	H28	18.0%以下	C
	女性	9.2%		11.2%		8.0%以下	D
メタボリックシンドローム予備群の減少	男性	16.5%	H25	17.3%	H28	16.0%以下	D
	女性	5.0%		7.0%		5.0%以下	D
特定健康診査の受診率向上	全体	51.1%	H25	54.6%	H28	60.0%以上	B
	男性	49.3%		53.0%			B
	女性	53.1%		56.1%			B
特定保健指導の終了率の向上	全体	11.1%	H25	26.2%	H28	60.0%以上	B
	男性	7.3%		18.8%			B
	女性	23.1%		50.0%			B
脳ドック検診の精検受診率の向上	—	66.7%	H25	16.7%	H28	90.0%以上	—
塩分を控えめにしている人を増やす	20~59歳	19.0%	H26	18.5%	H29	20.0%	C
	60歳以上	41.1%		39.5%		42.0%	C
脂肪の多い食品を控えめにしている人を増やす	男性 20~49歳	41.6%	H26	38.9%	H29	50.0%	C
	女性 20~39歳	63.2%		57.9%		70.0%	D
	20~59歳	—		53.3%		60.0%	
何か運動をしていますか(12歳以上)	12~19歳	78.6%	H25	84.2%	H28	85.0%	—
	20~59歳	57.0%		43.9%		66.0%	—
	60歳以上	55.9%		55.6%		66.0%	—
1日30分以上軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施	男性	29.0%	H25	31.4%	H28	43.0%	B
	女性	18.8%		26.9%		38.9%	B
循環器疾患にならないために心がけている人の増加(20~59歳)	全体	21.7%	H26	21.5%	H29	30.0%	C
	男性	17.0%		16.1%		25.0%	C
	女性	25.9%		26.5%		35.0%	C
血圧測定を行う事業数		3回	H25	※4回	H28	5回	B

※人間ドック、健康福祉祭、敬老センター例会、人間ドック結果説明会

- ・ I 度以上の高血圧の割合は減少し、目標に達しています。一方で、LDL コレステロール 140mg/dl 以上の割合は増加傾向にあります。
- ・ メタボリックシンドローム予備群及び、女性のメタボリックシンドローム該当者が増加しています。
- ・ 特定健康診査、特定保健指導の終了率は、いずれも男女ともに策定時より増加しています。
- ・ 塩分を控えめにしている人、脂肪の多い食品を控えめにしている人の割合が減少しています。
また、新たに 20～59 歳の「脂肪を控えめにしている人の割合」を指標として追加しました。
- ・ 運動をしている人の割合は、調査の選択肢を変更したため判定不能としています。

《これまでの取組》

- ・ 広報およびすこやかカレンダーに「脳血管疾患」「高血圧」についての情報を掲載。
- ・ 好発年齢世代（50～69 歳）で過去 10 年間村の脳ドック検診未受診者に受診勧奨案内を通知。
- ・ 28 年度からの脳ドック検診結果のデータベース化。
- ・ 人間ドック結果説明会の休日開催と、特定健診保健指導の同時実施。
- ・ 前年度、特定健診保健指導対象者のうち未利用者に、人間ドック受診時に状況確認と結果説明会の勧奨を実施

《主な課題》

- ・ 女性の脳血管疾患が多い
- ・ 20～59 歳の運動をしている人の割合は、他の年代に比べて低い。
- ・ 女性ではメタボ該当者、男性では予備群の増加しており、脂質異常症も増加。
- ・ 男性の 20～59 歳の循環器疾患にならないよう心掛けている人や、脂肪の多い食品を控える人の割合が低い。

《今後の取組と方向性》

- ・ 脳血管疾患の好発年齢世代への受診勧奨の強化。
- ・ 利用しやすい教室・相談事業の体制づくり
- ・ 血圧測定を習慣化するような情報啓発と環境整備
- ・ 現状と課題をわかりやすく情報提供

(3) 糖尿病

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
糖尿病腎症による年間新規透析導入患者の減少	—	44.4%	H16～25年	—	—	40.0%以下	判定保留
HbA1c6.5%以上の人の割合の減少	—	8.8%	H25	13.8%	H28	8.0%以下	D
HbA1c6.5%以上の治療中の人の割合の増加	—	63.6%	H25	71.6%	H28	75.0%以上	B
HbA1c8.4%以上割合の減少(治療中)	—	3.8%	H25	8.5%	H28	3.5%以下	D
メタボリックシンドローム該当者の減少(再掲)	男性	22.1%	H25	22.3%	H28	18.0%以下	C
	女性	9.2%		11.2%		8.0%以下	D
メタボリックシンドローム予備群の減少(再掲)	男性	16.5%	H25	17.3%	H28	16.0%以下	D
	女性	5.0%		7.0%		5.0%以下	D
40～74歳男性の肥満者の割合の減少	—	30.3%	H25	28.6%	H28	27%	C
40～74歳女性の肥満者の割合の減少	—	20.1%	H25	23.1%	H28	18%	C
特定健康診査の受診率の向上(再掲)	全体	51.1%	H25	54.6%	H28	60.0%以上	B
	男性	49.3%		53.0%			B
	女性	53.1%		56.1%			B
特定保健指導の終了率の向上(再掲)	全体	11.1%	H25	26.2%	H28	60.0%以上	B
	男性	7.3%		18.8%			B
	女性	23.1%		50.0%			B
糖尿病にならないために心がけている人の増加(20～59歳)	全体	29.9%	H26	30.9%	H29	50.0%	C
	男性	24.3%		24.8%		45.0%	C
	女性	35.2%		36.9%		55.0%	C
栄養のバランスに気をつけている人を増やす	12～19歳	63.4%	H26	61.6%	H29	70.0%	C
	20～59歳	76.8%		78.5%		80.0%	B
何か運動をしていますか(12歳以上)(再掲)	12～19歳	78.6%	H26	84.2%	H29	85.0%	—
	20～59歳	57.0%		43.9%		66.0%	—
	60歳以上	55.9%		55.6%		66.0%	—
一日30分以上軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施(再掲)	男性	29.0%	H25	31.4%	H28	43.0%	B
	女性	18.8%		26.9%		38.9%	B

- ・ HbA1c6.5%以上の人の割合が増加しています。
- ・ HbA1c6.5%以上で治療中の人は増加していますが、HbA1c8.4%以上(治療中)の血糖コントロール不良の割合が増加しています。
- ・ 40～74歳の女性の肥満者がやや増加しています。
- ・ 糖尿病にならないために心がけている人の割合は男女とも変化がない状況です。
- ・ 糖尿病腎症による年間新規透析導入者患者については、年により変動があるため、26～35年を次回の評価とします。

《これまでの取組》

- ・ 広報およびすこやかカレンダーに「糖尿病予防のための生活習慣」「糖尿病」についての情報を掲載。
- ・ 糖尿病予備群を対象に集団健康教室を実施。
- ・ 前年度、特定健診保健指導対象者のうち未利用者に、人間ドック受診時に状況確認と結果説明会の勧奨。
- ・ 人間ドック結果通知時に HbA1c の数値から現在の糖尿病リスク段階ごとの情報提供チラシを同封。
- ・ 60～74 歳の高血糖者（非肥満高血糖、空腹時血糖が基準値以上）に対して健康相談を実施。

《主な課題》

- ・ 女性の肥満者の増加
- ・ メタボリックシンドローム該当者、予備群の増加
- ・ 治療中のコントロール不良者の増加

《今後の取組と方向性》

- ・ 糖尿病に対する正しい知識の普及
- ・ 30～40 歳代への肥満予防の普及啓発
- ・ 治療中のコントロール不良者へのアプローチ
- ・ 医療機関との連携強化
- ・ 若年層から生活習慣病予防に取り組める体制整備の充実

(4) COPD

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
たばこを吸っている人の割合の減少 (20～59歳)(再掲)	全体	18.5%	H26	18.5%	H28	15.0%以下	C
	男性	33.0%		31.9%		28.0%以下	B
	女性	5.1%		5.7%		5.0%以下	C
たばこを吸っている人の割合の減少 (60歳以上)(再掲)	全体	14.1%	H26	13.4%	H28	13.0%以下	B
	男性	26.8%		25.0%		24.0%以下	B
	女性	2.6%		2.5%		2.5%以下*	A
たばこを習慣的に吸っている人の割合 (再掲)	全体	16.2%	H25	15.4%	H28	13.0%以下	B
	男性	27.7%		27.7%		24.0%以下	C
	女性	5%		4.1%		5.0%以下	A
COPD という病気があることを知っている人の増加	全体	6.5%	H26	7.6%	H28	80.0%	C
	20～59歳	7.2%		9.2%			C
	60歳以上	5.7%		5.8%			C
COPD についての掲載記事の回数	—	※1 2回	H26	※2 3回	H28	5回	B
喫煙対策の必要性があると思う人の割合の増加	12～19歳	74.2%	H26	77.1%	H28	90.0%	B
	20～59歳	70.9%		74.7%		90.0%	B
	60歳以上	57.9%		76.5%		75.0%	A

※1 すこやかカレンダー、健康福祉祭

※2 すこやかカレンダー、健康福祉祭、人間ドック

- ・ COPD の認知度は若干増加しているもののほとんど変化がない状況です。
- ・ 喫煙対策の必要性があると思う人の割合は 12～19 歳、20～59 歳で増加傾向にあり、60 歳以上では目標に達しています。
- ・ たばこを吸っている人の割合は、年代別では、60 歳以上では男女ともに減少していますが、20～59 歳では、男性は横ばい、女性ではやや増加しています。

《これまでの取組》

- ・ 広報およびすこやかカレンダーに「COPD」「COPD スクリーニング質問票」についての情報を掲載。
健康福祉祭にて、「肺年齢測定」を実施し、同じ場所でタバコ COPD の掲示を行い、禁煙相談を実施。
- ・ 人間ドック時に禁煙希望者に相談を実施。
- ・ 人間ドック会場内に禁煙情報と COPD の情報を掲示。

《主な課題》

- ・ COPD の認知度は増加しているが、目標には達していない。

《今後の取組と方向性》

- ・ COPD に関する PR 活動の強化
- ・ COPD 集団スクリーニング質問票 (COPD-PS) を用いたスクリーニングを集団健診に導入。

(5) 歯科疾患

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
80歳(75歳～84歳)の健口体操実施者の割合の増加	—	15.3%	H25	21.2%	H28	35.0%以上	A
80歳(75歳～84歳)の咀嚼良好者の割合の増加	健康教室	74.4%	H25	96.3%	H28	80.0%以上	A
	咀嚼力判定ガム	84.6%		92.8%		90.0%以上	A
年1回以上(かかりつけ)歯科を受診している者の割合の増加	30歳代	52.5%	H26	53.8%	H29	60.0%以上	B
	70歳代	71.3%		70.6%		80.0%以上	C
う蝕のない者の割合の増加	3歳	94.6%	H26	96.9%	H28	95%以上	A
	12歳	83.9%	H26	90.5%		90%以上	A
歯肉に炎症所見を有する割合の減少	14歳	7.3%	H26	4.8%	H28	5.0%以下	A
歯周炎を有する者の割合の減少	40歳代	11.0%	H25	23.3%	H28	10%以下	D

- ・ 80歳(75歳～84歳)では、健口体操実施者は増加傾向にあり、咀嚼良好者の割合は目標に達しています。
- ・ 3歳、12歳のう蝕のない者の割合及び14歳の歯肉に炎症所見を有する割合は目標に達しています。
- ・ 40歳代の歯周炎を有する者の割合が増加しています。

《これまでの取組》

- ・ 広報及びすこやかカレンダーに歯科疾患、口腔機能に関する正しい知識、情報の掲載。
- ・ 未就園児(1～3歳)、保育所児、保育園児を対象とした「むし歯予防教室」の実施
- ・ 小学生を対象とした「歯みがき教室」の実施。
- ・ 小学校歯科健診でG0(歯肉炎になりかけ)、G(歯肉炎)判定の児童へ小集団指導を実施。
- ・ 中学校歯科健診後、未受診者を対象とした小集団指導の実施。
- ・ オリジナル体操の口腔バージョン作成。
- ・ オリジナル体操の口腔バージョンの周知及び普及啓発活動。

《主な課題》

- ・ 40歳代の歯周炎を有する者の割合は増加
- ・ 年1回以上(かかりつけ)歯科を受診している者の割合に変化がみられない。

《今後の取組と方向性》

- ・ 40歳代も含む若い世代への歯周病の正しい知識及び情報提供。
- ・ 歯間清掃補助道具の周知、普及活動。

4. 生活習慣の見直し

(1) 栄養・食生活

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
肥満者割合の減少 (40～74歳)(再掲)	男性	30.3%	H25	28.6%	H28	27.0%	C
	女性	20.1%		23.1%		18.0%	C
中等度・高度肥満傾向児の割合の減少	小学生	3.5%	H26.4	3.3%	H29.4	3.0%	B
	中学生	5.3%		1.7%		3.0%	A
野菜をほとんど食べない人の減少	1～6歳	4.3%	H26	1.3%	H29	2.0%以下	A
	小学生	2.4%		0.9%			A
	12～19歳	8.1%		3.2%			B
	20～59歳	2.1%		2.3%			C
	60歳以上	3.8%		3.1%			B
朝食を毎日食べている人の増加	小学生	97.6%	H26	97.2%	H29	98.0%以上	C
	12～19歳	88.7%		91.6%		90.0%	A
	20～59歳	81.5%		79.4%		85.0%	C
塩分を控えめにしている人を増やす (再掲)	20～59歳	19.0%	H26	18.5%	H29	20.0%	C
	60歳以上	41.1%		39.5%		42.0%	C
脂肪の多い食品を控えめにしている人を増やす(再掲)	男性 20～49歳	41.6%	H26	38.9%	H29	50.0%	C
	女性 20～39歳	63.2%		57.9%		70.0%	D
	20～59歳	—		53.3%		60.0%	
健康の維持・増進につながる食事に関心がある人を増やす	20～29歳	70.9%	H26	74.5%	H29	80.0%以上	B
	30～39歳	83.0%		75.9%			D
	40～49歳	77.1%		76.2%			C
	50～59歳	78.1%		80.8%			A
	60歳以上	81.8%		78.3%			C
栄養のバランスに気を付けている人を増やす(再掲)	12～19歳	63.4%	H26	61.6%	H29	70.0%	C
	20～59歳	76.8%		78.5%		80.0%	B
食生活改善推進員数	—	16人	H26	13人	H29	16人以上	D
食育推進会議の開催	—	1回	H26	2回	H29	1回以上	A

- ・40～74歳の肥満者の割合は、男性は減少傾向ですが、女性は増加傾向にあります。
- ・中等度・高度肥満傾向児の割合は、小学生は減少傾向、中学生では目標を達成していますが、対象者数が少なく、1・2人の増減で大きく変動するため評価がむずかしい状況です。
- ・野菜をほとんど食べない人の割合は、1～6歳、小学生では目標を達成しています。
- ・朝食を毎日食べている人の割合は、12～19歳で目標を達成しています。
- ・塩分を控えめにしている人の割合、脂肪の多い食品を控えめにしている人の割合は、減少傾向にあります。

《これまでの取組》

- ・ 幼児期の食生活、食習慣に関する知識の普及啓発のための教室を実施
- ・ 保育所給食担当者会議の開催
- ・ 健康教育及び栄養相談を実施
- ・ 広報、すこやかカレンダー、児童館だよりに食生活・食習慣に関する情報を掲載
- ・ 食生活改善推進員養成教室を開催
- ・ 食生活改善推進員による飛島学園 5 年生調理実習の実施
- ・ 食生活改善推進員による保育所年少組親子への食育教室の実施

《主な課題》

- ・ 20～59 歳の野菜をほとんど食べない人が増加している
- ・ 健康につながる食事への意識の低下（減塩、脂肪）
- ・ 食生活改善推進員の減少

《今後の取組と方向性》

- ・ すべての世代に同一テーマでの生活習慣病予防の食生活についての知識の啓発、普及（第一保育所、飛島保育園、飛島学園、食生活改善推進員など関係機関、ボランティア団体との連携）
- ・ 食生活改善推進員の養成

食育推進取組内容について

○平成 27～29 年度の取組内容

目標	取組内容	
●健康な体づくり <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を身につける ・肥満、やせについての正しい知識を知る ・生活習慣病予防につながる生活習慣、食習慣を理解し、実践する ・健康状態にあった適切な食事を理解し、実践する ・子どもが規則正しい生活習慣食習慣を身につける環境づくり 	飛島学園	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が献立を作成し給食を実施 ○栄養素や体への働きについての啓発（保健だより） ○野菜についての授業を実施
	食生活改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○おやこの食育教室の実施 ○健康福祉祭での試食配布
	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣病予防につながる食生活に関する講話を実施 ○小児生活習慣病予防検診の実施
●豊かな心をはぐくむ <ul style="list-style-type: none"> ・色々な食品を経験する ・食事のマナーを身につける ・家族や友達との食事を楽しむ ・旬の食材を知る ・旬の食材を取り入れた食事づくり ・季節や行事にちなんだ食事を知り、楽しむ ・行事食・郷土料理など地域独自の食文化の理解と実践、継承 	飛島学園	<ul style="list-style-type: none"> ○旬の農産物、郷土料理、行事食を取り入れた給食を実施 ○郷土料理についての授業及び調理実習、レシピの配布 ○食育通信の発行、食育に関する情報を校内に掲示
	飛島保育園	<ul style="list-style-type: none"> ○給食試食会の実施 ○クッキングの実施
	第一保育所	<ul style="list-style-type: none"> ○クッキングの実施 ○味見当番活動の実施 ○行事食の実施 ○給食試食会の実施
	食生活改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい昼食会の実施 ○飛島学園での調理実習
	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ○児童館だよりに幼児の食事に関する情報掲載
●環境にやさしい暮らし <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産物を知る ・地域の農産物を積極的に利用する 	飛島学園	<ul style="list-style-type: none"> ○地元の農産物を取り入れた給食を実施
	飛島保育園	<ul style="list-style-type: none"> ○農業体験の実施 (農業委員会：元気な飛っこと、おいしい野菜を育て隊)
	第一保育所	<ul style="list-style-type: none"> ○農業体験の実施 (農業委員会：元気な飛っこと、おいしい野菜を育て隊)
	経済課	<ul style="list-style-type: none"> ○地元農産物の周知（産直市の開催） ○地産池消の啓発 ○農業体験事業
●食育の推進を支える	食生活改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> ○村事業への協力
	経済課	<ul style="list-style-type: none"> ○食育担当者連絡会議の実施
	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ○食生活改善推進員の養成、育成

○参考資料 関係団体食育事業内容一覧（平成29年度）

	事業概要	乳幼児期 (0～6歳)	学童期・思春期 (7～19歳)	成人期 (20～59歳)	高齢期 (60歳以上)
保健福祉課	バランス食、生活習慣病予防の食生活の普及を各世代に働きかけている。 特に乳幼児期は食生活の基礎となる重要な時期のため、重点を置いて事業を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食講習会(①③④⑥) ・すくすく教室(①③④⑥) ・園児保護者健康教育(①③④⑥) ・ぴかぴかもぐもぐ教室(①④⑫) ・ぴかもぐ教室(①③④⑥) ・食育だより(⑱) ・児童館だより(⑱) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児生活習慣病予防事業(②③) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病予防教室(①②③) ・パパ・ママ教室(①③) 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護栄養教室(①②③⑤) ・介護栄養相談(①②③⑤) ・高齢者世帯健康教育(①②③⑤)
				食生活改善推進員養成・育成(⑰)	
保育所	味見当番・報告は年長が給食の味見を行い、クラスで報告を行っている。 給食試食会では子どもたちが普段食べている給食体験できることから大変好評である。	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング(⑫⑮) ・味見当番・報告(⑫⑬) ・野菜栽培、収穫(⑩) ・行事食(⑩) (七夕、月見、クリスマス、節分など) ・もちつき(⑩) ・地場産物活用給食(⑧⑬) 		<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会(⑭⑱) ・おやつ参観(⑭⑱) ・給食の掲示(④⑤⑭⑱) 	
保育園	野菜の栽培・収穫は5歳児クラスが主となって行っている。 給食試食会では子どもたちが普段食べている給食体験できることから大変好評である。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験(⑪⑬) ・行事食(⑩) (こどもの日、ひな祭りなど) ・もちつき(⑩) ・地場産物活用給食(⑭⑮) ・クッキング(⑫⑮) 		<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会(⑭⑱) ・給食レシピ(⑭⑱) 	
飛鳥学園	各学年に、食に関する様々な指導を行っている。毎日の給食を生きた教材として活用している。 食育通信、給食試食会で保護者に対しても食に関する情報発信を行っている。		<ul style="list-style-type: none"> ・食育集会(①③⑨⑩⑫⑬⑮) ・委員会活動(①⑩⑫⑬⑱) ・行事食(⑩) (こどもの日、七夕、お月見、クリスマスなど) ・農業体験(3・4・5年生)(⑪) ・もちつき大会(⑩) ・地場産物活用給食(⑮) ・給食献立の作成(6年生)(①③⑭⑮⑱) ・食に関する掲示物(⑱) ・食育に関する授業(①⑧⑩⑫⑬⑮) 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会(⑭⑱) ・食育通信(⑱) ・保健だより(⑱) 	
食生活改善協議会	健康福祉祭では減塩食、バランス食をテーマに地場産物を用いた試食を幅広い世代に配布している。 ふれあい昼食会では高齢者にも食べやすく、バランスのとれた食事を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> ・おやこの食育教室(①③④⑥⑫) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園調理実習への協力(⑥⑬) 		<ul style="list-style-type: none"> ・さくらの会野外活動支援及び調理実習(①③⑬) ・ふれあい昼食会(①③⑤⑬) ・男性料理教室(①②③⑤)
		健康福祉祭 健康料理試食配布(①③⑬⑭)			
		保健福祉事業補助を通じた世代間交流(⑬)			
経済課	農業祭では地場産物を用いた試食を行っている。地場産物の食材を学園・保育所・園の給食に取り入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験(⑪) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験(⑪) ・給食への地場産野菜、米の提供(⑮⑯) 		
		農業祭 地場産物を使った試食配布、即売会(⑧⑪⑬⑯)			
		産直市の開催(すこやかセンター、ふれあいの郷)(⑧⑬)			
		食育担当者連絡会議の実施(⑱)			
		村の特産物を使用した商品の開発(⑮⑯)			

※()は取組内容番号 ※下線は新規事業

<取組内容>

●健康な体づくり	●豊かな心をはぐくむ	●環境にやさしい暮らし	●食育の推進を支える
①バランスのとれた食事の推進 ②肥満およびやせの予防・知識の普及 ③生活習慣病予防につながる生活習慣・食生活の推進 ④乳幼児期の基本的な食生活の確立 ⑤高齢期の食による健康維持の推進 ⑥家庭での食育実践のための支援	⑦食育の日・おうちごはんの日の推進 ⑧地元農産物の周知 ⑨食事作法の習得 ⑩郷土料理・行事食の継承 ⑪農業体験 ⑫食べ物に感謝する心を育てる ⑬食を通じた世代間交流	⑭地元農産物を活用したメニューの紹介 ⑮地元農産物を積極的に活用 ⑯地産地消の啓発	⑰食生活改善推進員の養成・育成 ⑱行政及び関係機関団体の連携 ⑲食育に関する情報発信

トピックス

栄養、食生活について

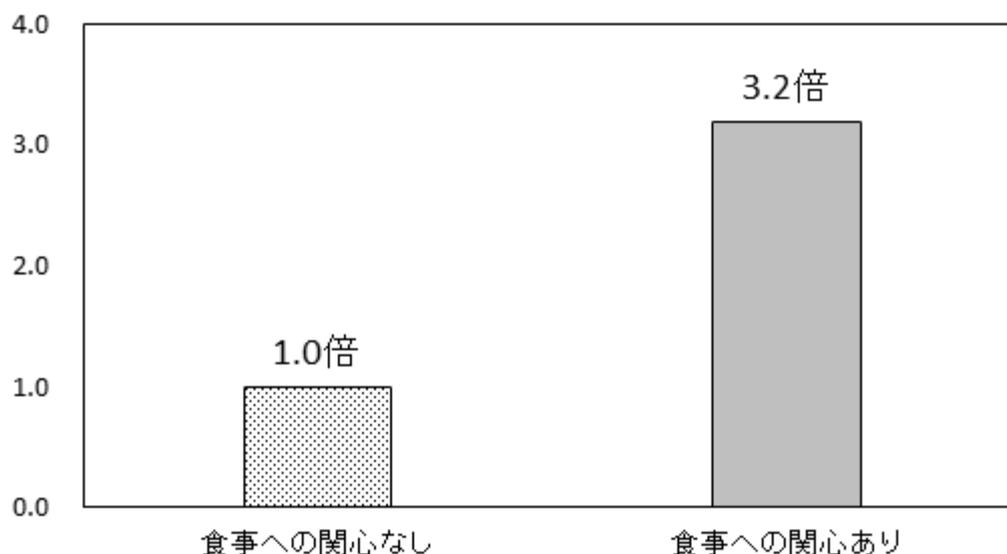
-健康の維持、増進につながる食事への関心と健康関連 QOL-

健康関連 QOL（身体的、心理的、社会的状態やウェルビーイングなど人の健康に直接影響する生活の質）は健康の維持、増進につながる食事への関心の有無と関連していました。

心も身体もいきいきと健康な毎日を送るためには日々の QOL（生活の質）を維持していくことが重要です。特に思春期は心身の変化から精神的不安定さや心理的ストレスを抱えやすい時期であり、思春期の QOL 保持がその後成人期以降のウェルビーイングに寄与することが報告されています。

飛島村の 2017 年調査より、思春期の健康関連 QOL の高さに影響する要因を分析しました。その結果、健康の維持、増進につながる食事へ関心がある方は、関心がない方と比べて健康関連 QOL が高い傾向が示されました。

子どもたちの健康な体づくりと豊かな心を育むために、家庭における食育の推進や食事の栄養バランスに気を配っていきましょう。



健康の維持、増進につながる食事への関心と健康関連 QOL の高さとの関連

(2) 身体活動・運動

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
何か運動をしていますか(12歳以上) (再掲)	12～19歳	78.6%	H26	84.2%	H29	85.0%	—
	20～59歳	57.0%		43.9%		66.0%	—
	60歳以上	55.9%		55.6%		66.0%	—
1回30分以上軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施 (再掲)	男性	29.0%	H25	31.4%	H28	43.0%	B
	女性	18.8%		26.9%		38.9%	B
日頃から健康維持増進のために意識的に体を動かすように心がけていますか	12～19歳	75.1%	H26	73.7%	H29	85.0%	C
	20～59歳	75.0%		72.0%			C
	60歳以上	79.9%		78.6%			C
1日におよそ何分くらい歩いていますか	12～19歳	58分	H26	55分	H29	95分	C
	20～59歳	54分		51分		85分	C
	60歳以上	46分		47分		65分	C
日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上の実施	男性	34.2%	H25	41.4%	H28	50.0%	A
	女性	36.8%		46.3%		50.0%	A
体力がある方だと思う	小学生	65.1%	H26	66.5%	H29	75.0%	B
	12～19歳	51.5%		54.7%		75.0%	B
体力チェックを実施している人	—	676人	H26	680人	H29	900人	C
この1年間に転んだことがありますか	全体	15.5%	H25	—	H29	16.0%	—
	男性	13.4%		—		13.5%	—
	女性	17.5%		—		17.5%	—
過去1年間に転んだ経験がありますか	65歳以上	—	—	34.6%	H29	現状維持	—
昨年と比べて外出の機会が減っていますか	全体	12.9%	H25	—	H29	13%	—
	男性	10.8%		—		11%	—
	女性	14.9%		—		15%	—
	65歳以上	—	—	20.3%	H29	現状維持	—
オリジナル体操の実施率(3か月に1回以上)	12～19歳	—	—	10.2%	H29	15%	—
	20～59歳	—	—	4.4%		7%	—
	60歳以上	—	—	16.2%		20%	—

- ・日ごろから健康維持のために身体を動かすようにしている人の割合が、12～19歳、20～59歳、60歳以上の各世代で減少しています。
- ・日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合は男女ともに増加しています。また、小学生、12～19歳で、体力がある方だと思う割合も増加しています。
- ・平成27年度から普及活動を開始した「飛島村オリジナル体操 キラリとびしまのびのび体操」の実施率を指標に追加しました。
- ・「この1年間に転んだ経験がありますか」「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」の設問は、「日常生活圏域ニーズ調査」に合わせ選択肢数が変更となったため、評価できずとしています。

《これまでの取組》

- ・ 敬老センターの運動実践室及び集会室を活用し、高齢者の運動習慣の増加や定着を促すため「敬老運動実践室筋トレ」、「いきいきヨガ／ゆったりヨガ」、「ストレッチ」、「シルバーストレッチ」を実施
- ・ すこやかセンターの温水プールを活用し、高齢者の運動による健康維持・増進を推進するため「シルバーフिटネス」を実施
- ・ 保育所の年中児・年長児を対象に、幼児期の基礎的な運動能力を高めるため「保育所体育あそび」を実施
- ・ 働き盛り世代に対する運動や健康情報の提供を行うため「生活応援教室」を開催し、すこやかセンターのトレーニングルームにおいて運動支援を実施
- ・ 平成 27 年に飛島村オリジナル体操「キラリとびしま のびのび体操」を創作・発表し、村民体育祭や健康福祉祭、一斉清掃など村の行事や地域活動時を中心に普及活動を実施

《主な課題》

- ・ 20～59 歳の運動をしている人の割合は、他の年代に比べ低い。
- ・ 日頃から健康維持増進のために意識的に体を動かすよう心がける人は、全ての年代(12～60 歳以上)において減少している。

《今後の取組と方向性》

- ・ 若い世代から日常生活の中で身体活動を増やすよう啓発ときっかけ作りをし、習慣化できるようサポートしていく取り組み
- ・ 運動習慣者の増加や運動意欲向上のために、健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）を活用
- ・ 子供と親の身体活動量を増加させるとともに、運動意欲や社会性等を伸ばすため、発達状況に合わせた運動遊びや親子遊びの啓発や情報提供
- ・ 引き続きオリジナル体操の普及を行いつつ、関係課と連携した定着に向けての支援体制づくり

トピックス

運動について

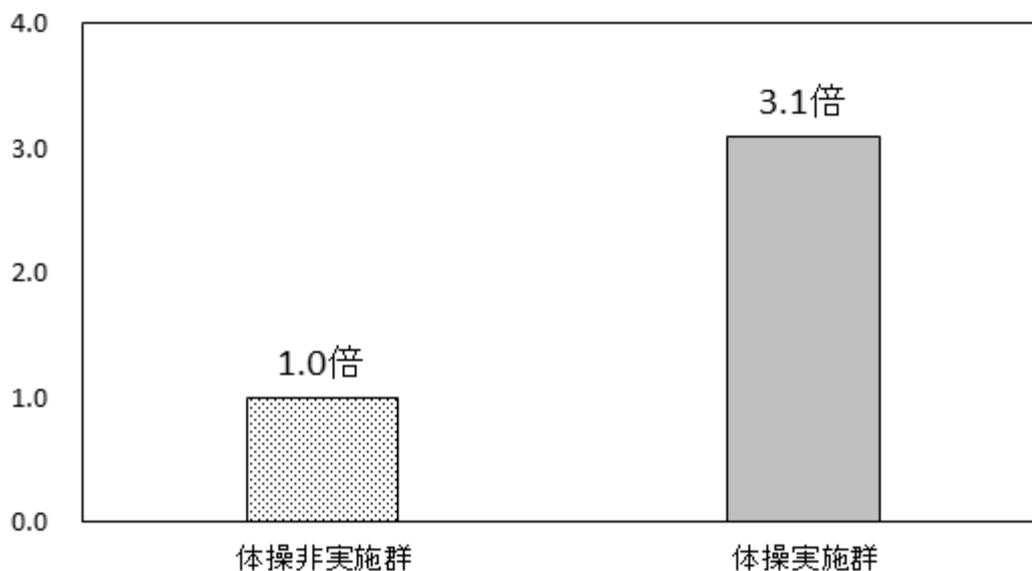
-キラリとびしまのびのび体操と日常生活動作-

手段的日常生活動作（IADL：バスや電車で移動する、買い物をする、食事をつくるなどの高次の生活動作）はキラリとびしまのびのび体操の実施と関連していました。

自立した生活を維持し、生涯を通じて健康であるためには、日常生活を送る上での機能である生活機能を維持していくことが大切です。

飛島村の2017年調査より、65歳以上高齢者における生活機能に影響する要因を分析しました。その結果、キラリとびしまのびのび体操の実施が手段的日常生活動作（IADL）と関連しており、体操をしている方はしていない方と比較して高いIADLを保持している可能性が示されました。

本成果より、体操を行うことが生涯を通じた健康づくりや介護予防につながることが期待されます。ぜひ日常の中でキラリとびしまのびのび体操を取り入れ、継続してみてください。



(3) 休養・こころの健康

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
睡眠で十分な休養がとれていない人の減少（20～59歳）	男性	24.5%	H26	24.7%	H29	20%以下	C
	女性	24.5%		25.3%			C
自殺者のうち10代の割合の減少	—	0%	H24	0%	H27	0%	A
午後10時以降に就寝する子どもの割合の減少	3歳	28.9%	H25	2.9%	H28	20%以下	A
ストレス解消法のない人の減少	20～59歳	3.7%	H26	3.7%	H29	3.5%以下	—
ゆったりとした気分で子どもと過ごせることができる人の増加	3歳	72.2%	H23～25平均	79.4%	H28	85%以上	B
エジンバラ産後うつ質問票（EPDS）9点以上の人の減少	—	3.8%	H25	0.0%	H28	3%以下	A
関係機関の連携会議数		4会議	H26	※5会議	H29	現状維持	A

※・保健衛生連絡会・包括ケア会議・児童、幼児等に関する意見、情報交換・子育て支援連携会議・障害ケア会議

- ・睡眠で十分に休養が取れていない人が、20～59歳の女性で増加しています。
- ・午後10時以降に就寝する子どもは減少し目標に達しています。
- ・ストレス解消法のない人の割合は、横ばいの状況にあります。判定としては、欠損値処理法等の変更によるベースライン値変更に伴い、目標値を変更したため今回は判定不能としています。
- ・エジンバラ産後うつ質問票9点以上の人は減少し目標に達していますが、年によって変動が大きいため注意が必要と思われます。
- ・関係機関との連携会議を充実させることで、担当者間の情報共有や支援体制の充実に図りました。

《これまでの取組》

- ・普及啓発活動：広報およびすこやかカレンダーに「こころの健康」「相談機関」についての情報を掲載。
- ・自殺予防啓発パンフレット及び啓発資材を広報、すこやかセンター、健康福祉祭等にて配布
- ・子育て中の母親に対して、育児相談、電話相談を実施
- ・新生児訪問時に、母親のエジンバラ産後うつ質問票（EPDS）を実施し、ハイリスク者には支援を実施
- ・児童館だよりにより子育ての情報を掲載、各種母子保健事業にて健康講話を実施。
- ・関係機関が情報共有するためのケア会議を実施し、必要なサービス等へつなぐ等、支援体制を強化。

《主な課題》

- ・相談をしない、できない、来られない人等に対する支援方法
- ・相談・支援体制の強化

《今後の取組と方向性》

- ・窓口、相談機関の周知徹底
- ・関係機関の連携を強化し、支援体制を充実
- ・平成 30 年度に「自殺対策計画」を策定

トピックス

こころの健康について

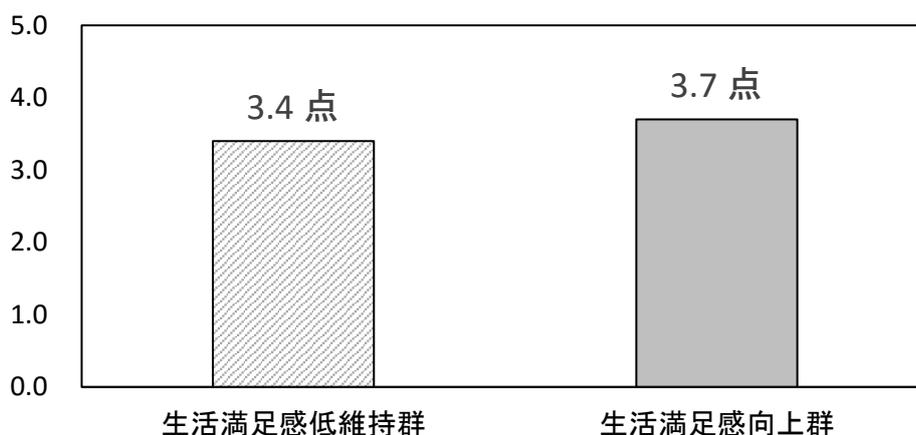
-社会とのかかわりと生活満足感-

生活満足感には、生活を主体的に過ごすこと（生活の工夫、物事への積極性、健康への配慮、規則的な生活）、他者とのかかわることが関連していました。

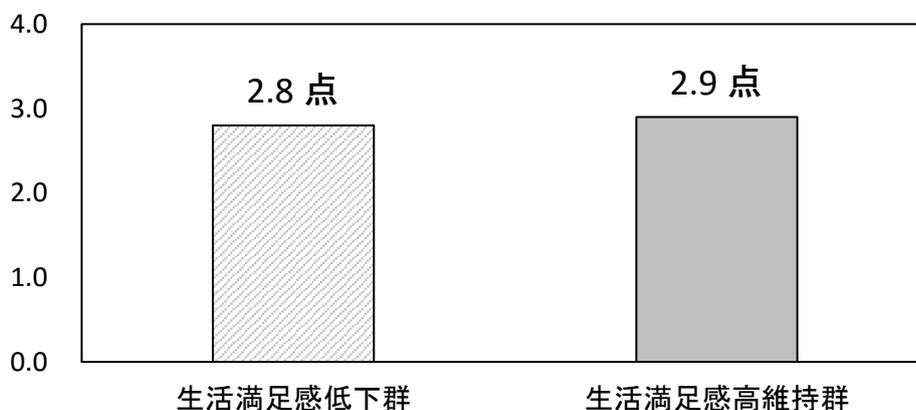
健康寿命の延伸とウェルビーイングの実現には、こころの健康を保つことが不可欠です。

飛島村の2014年、2017年調査より、生活満足感の維持に影響する要因を分析しました。その結果、生活を主体的に過ごすこと（生活の工夫、物事への積極性、健康への配慮、規則的な生活）で生活満足感が向上し、ご家族や友人との会話や訪問など、周りの方との交流が生活満足感の維持に重要である可能性が示されました。

生活に工夫を凝らしたり規則正しい生活に気を配り、周囲の方々とのかかわりを増やすことで生活満足感の保持や向上につながることを期待されます。



生活の主体性領域得点と生活満足感との関連



他者とのかかわり領域得点と生活満足感との関連

(4) 喫煙

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年	直近値	データ年	目標値	評価
たばこを吸っている人の割合の減少 (20～59歳)(再掲)	全体	18.5%	H26	18.5%	H28	15.0%以下	C
	男性	33.0%		31.9%		28.0%以下	B
	女性	5.1%		5.7%		5.0%以下	C
たばこを吸っている人の割合の減少 (60歳以上)(再掲)	全体	14.1%	H26	13.4%	H28	13.0%以下	B
	男性	26.8%		25.0%		24.0%以下	B
	女性	2.6%		2.5%		2.5%以下	A
たばこを習慣的に吸っている人の割合 (再掲)	全体	16.2%	H25	15.4%	H28	13.0%以下	B
	男性	27.7%		27.7%		24.0%以下	C
	女性	5%		4.1%		5.0%以下	A
妊娠中の喫煙率の減少	—	0.8%	H22～25 平均	母子健康手帳交付時の問診から3.4か月児健康診査問診詰問へ変更		A	
				0.0%	H28		0.0%
子育て中の過程における同居家族の喫煙者の割合の減少	3,4か月児	37.7%	H23～25 平均	28年度より詰問変更		25%以下	—
	1歳6か月児	43.9%					—
	3歳児	51.2%					—
育児期間中の両親の喫煙率	父親	3,4か月児		40.0%	H28	25%以下	—
		1歳6か月児		32.6%			—
		3歳児		26.5%			—
	母親	3,4か月児		0.0%	H28	0.0%	—
		1歳6か月児		2.3%			—
		3歳児		2.9%			—
12～19歳の喫煙者の割合の減少	—	0.0%	H26	0.0%	H29	現状維持	A
喫煙対策の必要性があると思う人の割合の増加(再掲)	12～19歳	74.2%	H26	77.1%	H28	90.0%	B
	20～59歳	70.9%		74.7%		90.0%	B
	60歳以上	57.9%		76.5%		75.0%	A
「生涯吸うべきではない」と考える人の割合	12～19歳	58.9%	H26	56.0%	H29	80.0%以上	C
喫煙に関する掲載記事の回数	—	2回	H26	※4回	H29	4回以上	A

※すこやかカレンダー・健康福祉祭・人間ドック・防煙教室

- ・喫煙対策の必要があると思う人は、各年代で増加しており、60歳以上では目標を達成しています。
- ・一方で、「生涯吸うべきではない」と考える未成年(12～19歳)の割合は減少しています。
- ・育児期間中の過程における同居家族の喫煙者の割合は、乳幼児健診の問診項目の変更により判定不能としています。
- ・妊娠中の喫煙者はいませんでした。20～59歳女性の喫煙者が増加しています。

《これまでの取組》

- ・普及啓発活動：広報およびすこやかカレンダーに「COPD」「COPD スクリーニング質問票」「受動喫煙」についての情報を掲載
- ・健康福祉祭にて、「肺年齢測定」を実施し、同じ場所でタバコと COPD の掲示を行い、禁煙相談を実施
- ・人間ドック時に禁煙希望者に相談を実施
- ・人間ドック会場内に禁煙情報と COPD の情報を掲示
- ・第一保育所、飛島保育園年長児にタバコについて健康教育（防煙教室）を実施。保護者に対しては事業報告とアンケートを実施
- ・小学校で歯科医師によるタバコについての健康講話を実施

《主な課題》

- ・20～59 歳女性の喫煙率の上昇
- ・未成年者の「生涯吸うべきではない」と考える人の割合が減少

《今後の取組と方向性》

- ・学園と連携し、小・中学生を対象とした喫煙防止対策の充実

(5) 飲酒

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
ほぼ毎日飲酒している人の割合の減少(20～59歳)	男性	27.7%	H26	26.2%	H29	20.0%	B
	女性	8.1%		9.1%		8.0%以下	C
ほぼ毎日飲酒している人の割合の減少(60歳以上)	男性	38.6%	H26	38.7%	H29	30.0%	C
	女性	6.3%		6.7%		6.0%以下	C
多量飲酒者の割合の減少 (2合以上の飲酒)	—	15.6%	H25	15.9%	H28	10%以下	C
(20～59歳)	男性	14.5%	H26	15.8%	H29	10.0%以下	C
	女性	6.4%		5.0%		3.0%以下	B
(60歳以上)	男性	11.2%	H26	13.4%	H29	8.0%以下	C
	女性	4.6		1.3%		3.0%以下	A
妊娠中、あなた(お母さん)は飲酒をしましたか。	—	0.0%	H28	母子健康手帳交付時の問診から3.4か月児健康診査問診詰問へ変更			A
12～19歳の飲酒者の割合の減少	男性	1.1%	H26	1.2%	H29	0.0%	C
	女性	3.1%		0.0%		0.0%	A
20歳までは飲むべきではないと考える人の増加(12～19歳)	男性	69.1%	H26	83.3%	H29	80.0%	A
	女性	88.0%		82.5%		95.0%	D
飲酒が健康に及ぼす影響の情報提供の回数を増やす	—	4回	H26	※1 5回	H29	5回以上	A
適正な飲酒量についての情報提供の回数を増やす	—	3回	H26	※2 4回	H29	4回以上	A

※1 ・母子健康手帳交付時・パパ・ママ教室・広報・すこやかカレンダー・介護栄養教室

※2 ・広報・すこやかカレンダー・健康教室・介護栄養教室

- ・ほぼ毎日飲酒している人は、女性で増加しています。また2合以上の多量飲酒者の割合は、男性で増加しています。
- ・12～19歳で、20歳までお酒を飲むべきでないと考える人は、男性は目標を達成していますが女性では減少しています。

《これまでの取組》

- ・広報およびすこやかカレンダーに「お酒の適量」「若年者への弊害」についての情報を掲載。
- ・母子健康手帳交付時に胎児への影響のパンフレットを配布
- ・パパママ教室において、健康教育の実施
- ・敬老センターにおいて健康教育の実施
- ・健康福祉祭で断酒会と協力し、相談コーナーを設置

《主な課題》

- ・女性の毎日飲酒している人の割合の増加
- ・男性の多量飲酒者の増加
- ・女性の20歳まで飲むべきではないと考える人の減少

《今後の取組と方向性》

- ・未成年（小・中学校）の飲酒について学校と連携し普及啓発の推進
- ・健診等を活用した情報提供

トピックス

飲酒について

-相談者の有無と飲酒習慣-

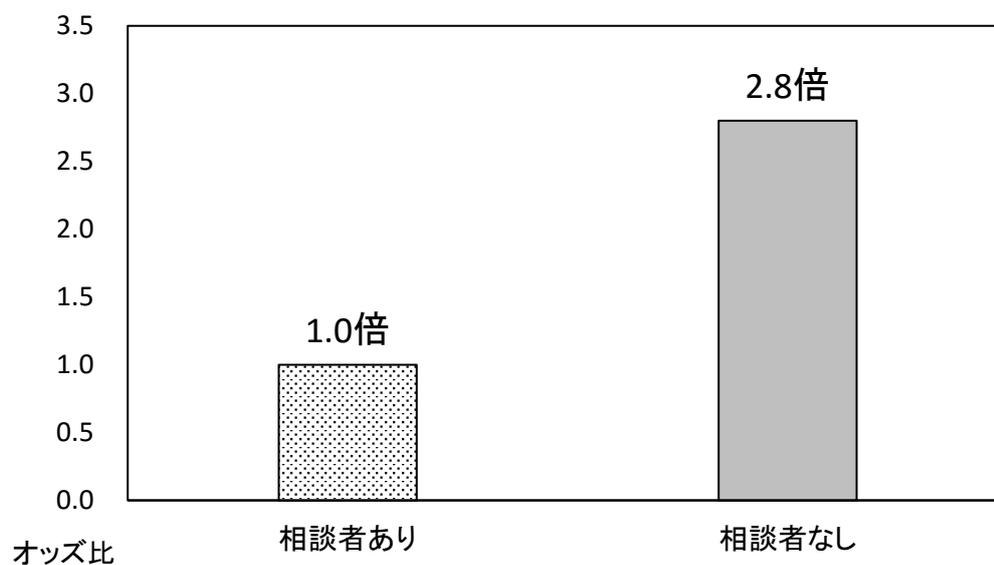
毎日の飲酒習慣と、相談者の有無が関連していました。

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活をするためには、生活習慣病の予防が大切です。過度の飲酒は生活習慣病のリスクを高める可能性があり、その予防は重要な保健施策課題の一つです。

飛島村の2014年、2017年調査より、飲酒習慣（毎日飲酒する習慣があること）に影響する要因を分析しました。

その結果、困った時に相談にのってくれる人がいない方は、いる方と比較して毎日の飲酒習慣が高く、相談者の有無が飲酒習慣などの健康行動に寄与する可能性が示されました。

節度ある飲酒習慣を保ち、ご自身だけでなく周囲の方々皆が健康で生活していくためにも、ご家族や地域の方々と声をかけあいながら、普段からのつながりやご縁を大切にしていきましょう。



相談者の有無と3年後の飲酒習慣（毎日の飲酒）との関連

(6) 歯・口腔の健康

《指標の状況》

指 標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
仕上げ磨きをしている人の割合の増加（再掲）	1歳6か月児	80.6%	H25	95.3%	H28	90%以上	A
1日に2回以上歯みがきをする人の割合増加	小学生	90.9%	H26	92.1%	H29	95.0%以上	B
	12～19歳	76.0%		81.3%		80.0%以上	A
歯間補助道具を使用する人の増加	小学生	29.3%	H26	28.0%	H29	現状より 10.0%以上 増加	C
	12～19歳	35.2%		35.9%			C
	20～29歳	29.9%		36.7%			B
歯磨剤（フッ化物配合）の使用増加	0～6歳	77.4%	H26	68.2%	H29	85.0%以上	D
年1回以上（かかりつけ）歯科を受診している者の割合の増加	30歳代	52.5%	H26	53.8%	H29	60.0%以上	C
	70歳代	71.3%		70.6%		80.0%以上	C

- ・ 1歳6か月児で仕上げ磨きをしている人の割合は目標に達しています。
- ・ 1日2回以上歯磨きする人の割合は、小学生では増加しており、12～19歳では目標に達しています。
- ・ 歯間補助道具を使用する人の割合では、20～59歳では増加していますが、小学生で減少しています。
- ・ 0～6歳で歯磨剤（フッ化物配合）の使用者が減少しています。

《これまでの取組》

- ・ カレンダー、広報に歯・口腔の健康に関する正しい知識、情報の掲載
- ・ 歯科医師会との連携、情報交換のため地域医療懇談会の開催
- ・ 各関係機関との連携、情報交換
- ・ 歯間補助清掃道具の周知、普及活動
- ・ 敬老センターにおいて、各老人クラブ例会の食事前にオリジナル体操（口腔バージョン）を実施

《主な課題》

- ・ 小学生で歯間補助道具を使用する人の減少
- ・ 0～6歳で歯磨剤の使用減少

《今後の取組と方向性》

- ・ 歯間補助道具の周知、普及活動の強化
- ・ 歯磨剤の周知、普及活動

トピックス

喫煙、歯の健康について

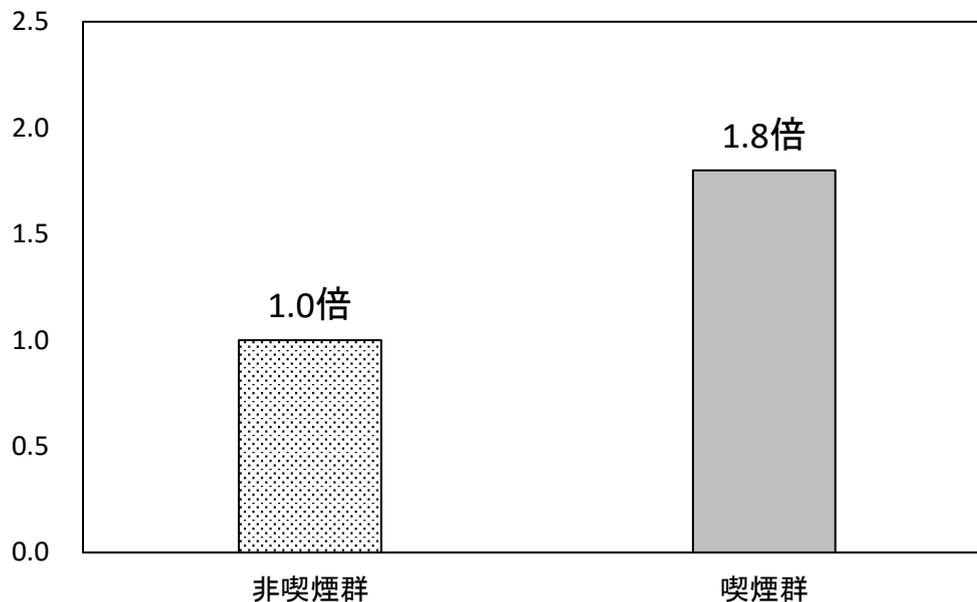
-喫煙習慣と歯周病-

喫煙習慣の有無が歯周病の自覚と関連していました。

う歯（虫歯）や歯周病に代表される歯の病気は、進行により欠損や障害が蓄積すると歯の喪失につながり、食生活や社会生活に支障をきたし、さらには全身の健康に影響を与えているといわれています。

そこで飛島村の2014年、2017年調査より、自覚している歯周病に影響する要因を分析しました。その結果、喫煙習慣のある人は、ない人と比較すると自覚している歯周病の保有リスクが高くなる可能性が示されました。

喫煙やその他たばこに含まれている有害物質は、歯周組織血管を縮めたり炎症を誘発して歯周病を引き起こす要因の一つと考えられています。さらに喫煙には、自身への影響はもちろん、受動喫煙により周囲の方々へ影響を与える可能性があります。健康の維持や、歯周病予防のためにも禁煙、分煙を心掛けてみませんか。



喫煙習慣と3年後のと歯周病保有リスクとの関連

5. 社会で支える健康づくり

《指標の状況》

指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値	評価
相談相手がいる人の増加	20～39歳	96.4%	H26	96.2%	H29	98.0%以上	C
	40～59歳	95.1%		95.1%			C
	60歳以上	92.8%		92.8%			C
いざという時助けてくれる人がある人の増加	20～39歳	97.3%	H26	95.4%	H29	98.0%以上	C
	40～59歳	95.6%		94.7%			C
	60歳以上	93.6%		94.0%			C
地域活動に参加している人の増加	20～39歳	24.8%	H26	20.6%	H29	30.0%	C
	40～59歳	33.6%		32.6%		35.0%	C
	60歳以上	56.9%		56.8%		60.0%	C
飛島村オリジナル体操である「キラリとびしまのびのび体操」を知っている人の増加	12～19歳	—	—	71.6%	H29	80.0%	—
	20～59歳	—	—	57.8%		60.0%	—
	60歳以上	—	—	60.6%		65.0%	—

- ・いざという時助けてくれる人がある人の割合は、各年代差はなく、94～95%を占めています。
- ・地域活動に参加している人は、60歳以上は横ばいですが、20～59歳で減少しています。
- ・平成27年度から普及活動を開始した「飛島村オリジナル体操 キラリとびしまのびのび体操」の認知度を指標に追加しました。

《これまでの取組》

- ・オリジナル体操の創作、発表、普及啓発の実施、住民リーダーの育成
- ・オリジナル体操の普及を通じ、各団体の協力・連携による地域づくり
- ・とびしま健康マイレージ事業の推進
- ・健康推進委員による地域への健康情報の提供
- ・すこやかカレンダー、広報への健康づくりに関する記事の掲載

《主な課題》

- ・いざという時助けてくれる人がある人の減少
- ・地域活動に参加している人の減少

《今後の取組と方向性》

- ・総合相談窓口（相談窓口の1本化）の周知
- ・オリジナル体操を活用した地域での世代間交流、家族間交流の促進
- ・住民リーダー・普及協力者の育成
- ・とびしま健康マイレージ事業の推進強化

第4章 健やか親子21（第2次）

すこやか親子21（第2次）について、国は平成31年度に中間評価を実施する予定としており、飛島村でも、国の中間評価後、国の指標に基づき行うこととします。

今回は、課題抽出のため、直近値を確認し、目標値の見直し及び今後の取組と方向性について検討を行いました。

1. 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策

《指標の状況》

項目・指標	対象者	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値
妊娠・出産について満足しているものの割合の向上	3・4か月児	—	—	96.0%	H28	※現状維持
乳幼児健康診査の未受診率	3・4か月児	3.0%	H25	0%	H28	0%
	1歳6か月児	0%		2.3%		
	3歳児	5.0%		6.25%		
小児救急電話相談（#8000）を知っている親の割合	3・4か月児	—	—	96.0%	H28	100%
子どものかかりつけ医を持つ親の割合（医師）	3・4か月児	—	—	84.0%	H28	90%
	3歳児	—		91.2%		100%
子どものかかりつけ医を持つ親の割合（歯科医師）	3歳児	—	—	35.3%	H28	40.0%*

*は、直近値から目標値を修正

28年度より集計を導入した項目・指標は、ベースライン値を—（ハイフン）で示してある。

《これまでの取組》

- ・連絡票を通じて、医療機関とハイリスク妊婦等について情報連携を実施。
- ・母子健康手帳交付時のスクリーニングにより、ハイリスク妊婦を把握し、継続支援を実施。
- ・保健師による新生児、産婦全戸訪問実施。訪問時に、小児救急電話相談について情報提供。
- ・エジンバラ産後うつ質問票を行い、産婦の相談・支援を実施。
- ・各関係機関の連携強化のため、月1回子育て支援連携会議を開催。
- ・乳幼児健診未受診者に対しては、家庭訪問・保育所等での確認等、個別に対応
- ・乳幼児の歯科については、年2回のむし歯予防教室（保健センター、保育所・保育園）にて健診・指導を実施

《主な課題》

- ・乳幼児健診の回数が限定されているため、体調不良等の理由で未受診となると、次の健診までの期間が長く、そのまま未受診になってしまうこともある。
- ・子どものかかりつけ医および歯科医を持つ親の割合が低い。

《今後の取組と方向性》

- ・ 妊娠期からの子育て支援の充実を図る、とくに出産直後の支援について強化する。
- ・ かかりつけ医を持つことの推進を図る。とくに歯科医については、母子保健事業を通して啓発に努め、むし歯予防教室等で対応する。
- ・ 切れ目ない支援を目指し、関係部署・機関との情報共有と連携を強化する。

2. 学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

《指標の状況》

項目・指標	男女等の別	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値
小学生の中等度・高度肥満傾向時の割合の減少(再掲)	—	3.5%	H26	3.3%	H29	3%
中学生の中等度・高度肥満傾向児の割合減少(再掲)	—	5.3%	H26	1.7%	H29	3%
朝食を毎日食べている人の増加(再掲)	小学生	97.6%	H26	97.2%	H29	98.0%以上
	12～19歳	88.7%		91.6%		90.0%
栄養のバランスに気を付けている人を増やす(再掲)	12～19歳	63.4%	H26	61.6%	H29	70.0%
何か運動をしていますか(12歳以上)(再掲)	12～19歳	78.6%	H26	84.2%	H29	85.0%

《これまでの取組》

- ・学校保健委員会に参加し、保健に関する情報提供を実施。
- ・小児生活習慣病予防検診の項目を見直し、大人のメタボリックシンドローム判定項目に合わせて実施。検診前の健康教育、健診後の個別健康相談を実施。
- ・学校からの依頼により各種健康講話を実施。
- ・オリジナル体操の普及のため、学校で指導会を開催
- ・保健衛生連絡会にて各種関係機関で事業報告を実施
- ・1～6年生の希望者には、フッ化物洗口を実施。また「歯みがき教室」を開催
飛島学園の学校歯科健診の結果、G（歯肉炎）、G0（歯肉炎になりかけ）、歯石等ある者への小集団指導の実施

《主な課題》

- ・10代の栄養バランスに気をつけている人が減少傾向にある。

《今後の取組と方向性》

- ・母子保健事業等、各種事業の中で、乳幼児期からよい生活習慣が身に付けられるような働きかけを行い、同時に保護者にも情報提供を行う。
- ・小児生活習慣病予防検診の結果を踏まえ、家族を含めた健康対策を行う。

3. 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

《指標の状況》

項目・指標	対象者	ベースライン値	データ年	直近値	データ年	目標値
この地域で子育てをしたいと思う親の割合	3・4か月児	—	—	100%	H29	※現状維持
	1歳6か月児	—		97.8%		
	3歳児	—		100%		
妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮されたと思う就労妊婦の割合	3.4か月児	—	—	89.5%	H29	95.0%
マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	3.4か月児	—	—	68.0%	H29	※70.0%
積極的に育児をしている父親の割合	3・4か月児	—	—	36.0%	H29	※40.0%
	1歳6か月児	—		53.5%		※55.0%
	3歳児	—		61.8%		※64.0%

28年度より集計を導入した項目・指標は、ベースライン値を—（ハイフン）で示してある。

※直近値より目標値を修正

《これまでの取組》

- ・母子健康手帳交付時にマタニティマークキーホルダーを配布。また、就労妊婦に対しては、就労支援についての冊子を配布。
- ・パパ・ママ教室にて父親の参加を勧奨。父親への育児参加の情報提供を実施。
- ・新生児家庭訪問時に、父親とできる親子ふれあい遊びの冊子を配布。
- ・育児相談、電話相談にて子育ての相談を実施
- ・各種子育てに関する事業やサービスについてホームページや案内チラシにより情報提供
- ・各関係機関の連携強化：月1回子育て支援連携会議を開催。
- ・子育て支援の充実、強化のため各種関係機関と協議

《主な課題》

- ・職場から配慮されたと思う就労妊婦が目標値より低い状態にある。
- ・マタニティマークの使用した妊婦の割合が目標値より低い状態にある。
- ・積極的に育児をしている父親が、低い状態にあり、とくに3.4か月児の乳児期が低い状態になっている。

《今後の取組と方向性》

- ・就労中の妊婦が受けられる支援についての情報提供、父親向けの育児情報の提供と啓発
- ・父親が参加しやすい教室の開催
- ・妊娠期からの相談支援の充実、とくに出産直後の支援について強化する。
- ・子育てを地域で見守る環境づくり

4. 育てにくさを感じる親に寄り添う支援

《指標の状況》

項目・指標	対象者	ベースライン値	データ年	直近値	データ年	目標値
育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	3・4か月児	—	—	該当者なし	H29	95.0%
	1歳6か月児	—		90%		
	3歳児	—		90%		
子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	3・4か月児	—	—	88.0%	H29	95.0%
	1歳6か月児	—		95.3%		
	3歳児	—		76.5%		

28年度より集計を導入した項目・指標は、ベースライン値を—（ハイフン）で示してある。

《これまでの取組》

- ・療育体制の整備：週5日の療育教室の開催。
- ・事後教室と療育教室との連携強化：療育指導員が両教室を担当。
- ・各関係機関の連携強化：月1回子育て支援連携会議を開催。
- ・育児相談、電話相談にて子育て相談を実施
- ・臨床発達心理士による発達相談と発達検査による子どもとの関わり方についての助言を実施
- ・保健師、心理士による療育教室、保育所・保育園に巡回相談を実施
- ・教育委員会作成サポートファイル（個別教育支援計画）の作成支援を実施
- ・海部南部障害者自立支援協議会、障害ケア会議、特別支援教育連絡協議会等にて各種関係機関と連携強化

《主な課題》

- ・育てにくさを感じたときに、どこに相談すればよいかわからない等の対処の仕方がわからない親が約1割存在する。
- ・子どもの年齢相当の社会性の発達について知っている親が、目標値より低い状態にある。

《今後の取組と方向性》

- ・子どもの発達についての情報提供及び啓発
- ・相談しやすい窓口の整備、子育て支援の充実を図る。
- ・乳幼児～学童期成人までの途切れない支援を目指し、関係機関・部署との情報共有と連携を強化する。
- ・各種関係機関が連携し、乳幼児健診から事後教室、療育教室、就園、就学まで切れ目ない支援を継続する。
- ・サポートファイル（個別教育支援計画）の活用を促進する
- ・子どもの問題だけではなく、親の問題にも寄り添い、支援する。

5. 妊娠期からの児童虐待防止対策

《指標の状況》

項目・指標	対象者	ベースライン値	データ年次	直近値	データ年次	目標値
子どもを虐待していると思われる親の割合◎	3・4か月児	—	H25			0%
	1歳6か月児	7.9%				
	3歳児	12.2%				
	3・4か月児	—	—	16.0%	H28	※10.0%
	1歳6か月児	—		25.6%		※20.0%
	3歳児	—		47.1%		※40.0%
乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）を知っている親の割合	3.4か月児	—	—	100%	H28	100%

28年度より集計を導入した項目・指標は、ベースライン値を—（ハイフン）で示してある。

※直近値より目標値を修正

◎25年度は、親の主観「虐待をしていると思うか」を尋ねていたが、28年度は行為（「しつけのし過ぎがあった」「感情的に叩いた」「乳幼児だけを家に残して外出した」「長時間食事を与えない」「感情的な言葉で怒鳴った」「子どもの口をふさいだ」「子どもを激しく揺さぶった」「いずれも該当しない」）の有無を尋ねているため、判定はせずに指標の変更とする。

《これまでの取組》

- ・乳幼児揺さぶられ症候群について、パパ・ママ教室にて周知を行い、新生児家庭訪問にてパンフレットを配布。
- ・母子健康手帳交付時のスクリーニングにより、ハイリスク妊婦を把握し、継続支援を実施。
- ・エジンバラ産後うつ質問票を行い、産婦の相談・支援を実施。
- ・関係機関の連携強化：月1回の子育て支援連携会議にて情報を共有。
- ・月1回要支援家庭の会議を開催し、海部児童・障害者支援センター、児童福祉担当、各種関係機関と連携

《主な課題》

- ・虐待までは至らないが、子どもの年齢が上がるにつれて「感情的な言葉で怒鳴った」「感情的に叩いた」など虐待につながる行為を行う親が増えてくる。

《今後の取組と方向性》

- ・虐待および虐待につながる行為が、子どもに与える影響についての啓発
- ・相談しやすい窓口の整備、子育て支援の充実を図る。
- ・切れ目ない支援を目指し、関係部署・機関との情報共有と連携を強化する。

資 料 編

1. 飛島村日本一健康長寿村研究会調査概要

(1) 目的

健康とびしま 21 第 2 次計画中間評価に向けて各指標の達成状況を把握するため、全住民への質問紙調査(健康チェックリスト)の他、グループインタビューによるニーズ調査、有識者への訪問調査等を実施しました。

(2) 方法

① 質問紙調査(健康チェックリスト)

平成 29 年 5 月に配布開始した健康チェックリストの内訳は以下のとおりです。

対象者	対象者数	配布数	未送	回収数	回収率*
0～6 歳 (保護者回答)	226	226	0	186	82.3%
小学生 (保護者回答)	279	279	0	230	82.4%
中学生～19 歳	270	269	1	202	75.1%
20～59 歳	2,171	1,940	231	1,522	78.5%
60 歳以上	1,658	1,574	84	1,429	90.8%
計	4,604	4,288	316	3,569	83.2%

※回収率：配布数に対する回収数の割合

② フォーカスグループインタビュー

調査期間は平成 29 年 7 月 4～14 日であり、以下の対象にフォーカスグループインタビューを実施しました。インタビュー時間は約 1 時間～1 時間半で、調査対象は議員、有識者、食生活改善推進員、スポーツ推進員でした。調査項目は「飛島村保健医療福祉の強み」「今後充実させるとよいと思われるサービス、施策」「推進員としてのやりがい、生きがい」「取り組み実現のためのアイデア」「これからの地域づくり」等でした。インタビュー内容は対象者に事前に承諾を得た上で、IC レコーダー及びビデオ動画を記録し、内容分析を行いました。

③ 訪問調査

調査期間は平成 29 年 7 月 4～14 日であり、調査方法は、対象者を訪問し面接による聞き取りにより回答を得ました。対象者は、村の有識者(医師)2 名でした。

2. オリジナル体操（キラリとびしまのびのび体操）創作・普及活動

(1) 創作活動・普及活動の概要

年度	オリジナル体操創作・普及活動 概要	その他
26	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活改善推進員の発案で、オリジナル体操の創作を開始。 ・日本一健康長寿村研究会によりオリジナル体操曲の完成 ・食生活改善推進員とスポーツ推進委員でオリジナル体操の創作を行うこととなる。 ・食生活改善推進員による歌詞（第1案）の作成 ・スポーツ推進委員による運動の特性別40種目の決定 	<p>毎月1回 打合せを 実施</p>
27	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞・タイトル募集（応募総数382） ・オリジナル体操選定会（参加者109名） ・村民体育祭にてオリジナル体操披露 ・普及活動に生涯学習（スポーツ）推進員が加わる。 ・オリジナル体操に関する各団体へのグループインタビューの実施 ・オルゴールバージョン完成 ・普及用DVD完成 ・ポスター・ちらし作成 	<p>普及活動 開始</p>
28	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル体操曲CD作成（希望者へ配布開始） ・オリジナル体操をホームページ（YouTube）にて公開 ・住民参加のPR動画撮影（村民体育祭・健康福祉祭） ・オリジナル体操に関する各団体へのグループインタビューの実施 ・合唱曲披露（フラウエンコアとびしま・ふるさとフェスタ） ・朝の村内一斉放送をオリジナル体操曲（オルゴールバージョンに変更） ・住民参加PR動画の公開（ホームページ（YouTube）） ・アイラブとびしま お口の体操（高齢者向け）作成 	
29	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加のPR動画撮影（文化協会編） ・住民参加PR動画（文化協会編）公開（ホームページ（YouTube）） ・村民体育祭においてオリジナル体操を地区貢献種目として得点種目化 ・オリジナル体操に関する各団体へのグループインタビューの実施 	

(2) 普及活動

	事業（イベント）名	対象者	回数	参加者数	
27 年 度	村民体育祭	体育祭参加者	1	504人	
	大宝大祭（地区の祭）	大宝地区住民	1	約400人	
	健康福祉祭	ウォーキング参加者、イベント参加者	2	約145人	
	スポーツ少年団（野球）	少年野球参加者（小学生・コーチ・親の会）	1	30人	
	むし歯予防教室	保育所・保育園児の保護者	2	91人	
	さくらの会調理実習	高齢者	1	20人	
	パオパオキッズ	乳幼児とその母親	1	12人	
	ビーチボールバレー	ビーチボールバレークラブ参加者	1	96人	
	ふれあい昼食会	高齢者世帯	1	20人	
	飛島学園（小学生）指導	小学1～6年生	1	270人	
	老人クラブ例会	老人クラブ員	6	434人	
	新春芸能祭	老人クラブ員	1	247人	
	障がい者と家族のつどい	障がい者・家族	1	56人	
	合 計			20	2,324人
	普及者 スポーツ推進委員 延50人、食生活改善推進員 延101人、生涯学習（スポーツ）推進員 延19人				
28 年 度	【小学生体操指導	①5～6年生、②1～6年生	2	359人	
	ビーチバレー教室	教室参加の親子	2	105人	
	元気で長生き健康フェア	健康フェア参加者と施設職員	1	200人	
	チャレンジデイ	①敬老センター利用者 ②児童館パオパオキッズ参加親子	2	110人	
	バレーボール連盟	参加者	2	97人	
	夏休みラジオ体操	子ども会	3	310人	
	ドッチボール大会	子ども会	1	306人	
	保育所・園体操指導	入所・園児	2	132人	
	夏祭り	夏祭り参加者	1	1,400人	
	村民体育祭	体育祭参加者	1	489人	
	村内一斉清掃	南竹之郷・北竹之郷・古台・大宝・新政地区	5	481人	
	大宝祭	大宝地区	1	420人	
	健康福祉祭	健康福祉祭参加者	1	40人	
	おくすり健康サポート教室	老人クラブ員	6	406人	
	後期栄養教室	老人クラブ員	6	110人	
	芸能祭	老人クラブ員	1	254人	
	合 計			37	5,219人
普及者 スポーツ推進委員 延73人、食生活改善推進員 延115人、生涯学習（スポーツ）推進員 延4人					

(3) キラリとびしまのびのび体操普及に向けた住民ニーズ報告

本村では「健康とびしま21第2次計画」の重点課題である「健康長寿村の実現」を目指し、世代間交流と住民の健康化を実現するための仕掛けづくりとして、オリジナル体操を創作し、地域ボランティアを主軸とした体操創作、普及活動を実施してきました。今後の普及活動展開に向けた住民ニーズを整理するために行ったフォーカス・グループ・インタビューの結果を以下の通りまとめました。

① 目的

キラリとびしまのびのび体操に対する住民及び地域ボランティアのニーズ等を整理し、今後の体操普及展開につなげることを目的としました。

② 方法

2015年～2017年の3年間、村民体育祭参加者の中で調査協力が得られた住民と地域ボランティアを対象に、フォーカス・グループ・インタビューを実施しました。分析では逐語録を作成し、内容分析を行いました。インタビュー内容は「体操を行った感想」「体操を普及・発展していくためのアイデア」「健康長寿の実現に向けたアイデア」の3項目でした。

③ キラリとびしまのびのび体操とは

「健康とびしま21第2次計画」の重点課題である「健康長寿村の実現」を目指し、世代間交流と住民の健康化を実現するための仕掛けづくりとして作成されました。体操内容は、子どもから高齢者まで誰もが健康で楽しく、ふるさと感じながら運動できることを目的としています。

自治体オリジナル体操としてのアピールポイント

- スポーツ推進委員と食生活改善推進員が中心となり作成しました。
- 運動の動きやタイトル、歌詞は住民の投票で決定しました。
- 基本編(立位)と座位編があり、子どもからお年寄りまで一緒に楽しめます。

これまでの普及活動

<住民の生活に根付いた普及活動>

- 地域の祭りや地区の一斉清掃時、老人クラブの集まりや、保育所(園)、小・中学校内での活動等、住民の生活に根付いた場所や行事等の機会を活用し、繰り返し実施することで定着を図ってきました。

<媒体を活用した普及>

- 体操曲のオルゴールバージョンを作成し、毎朝の一斉放送で音楽を活用
- 店舗や施設のBGMに活用など日常的に耳にする機会を創出
- 高齢者向けの口腔体操のDVDを作成し、介護予防事業に取り入れる
- 住民参加・実施による体操のPR動画を作成しYouTubeにアップする等仕掛けづくり

④ キラリとびしまのびのび体操 住民インタビュー結果

キラリとびしまのびのび体操の感想

<一般参加者>

体操をする楽しみや取り組みやすさ、一体感を味わった喜びの声が多くあがりました。

「楽しくできた。」

「軽くて良い。リズムが楽しい。」

「初めてやったけど、覚えやすかった。」

「横のつながりができた。みんなでできたのがよかった。」

<地域ボランティア>

体操普及にともないさらなる活動の達成感を味わい、活動へのモチベーション向上につながっているようです。

「三世代を通して各世代と一緒に体操をやっている姿を見て、『飛鳥はすごい!』と実感した」

「多くの村民の皆さんが体操を知っていることに気がつき、すごいと感じた」

「年々体育祭の飛鳥体操へ参加者が増えておりうれしい。認知度が上がってきているのを感じている」

キラリとびしまのびのび体操普及へのアイデア

<一般参加者>

多様なバージョン作成やインセンティブの付与などに加え、多団体、機関との連携の必要性や、体操の目的とその効果の明示の必要性など、普及展開に向けた意見が具体的に変化しました。

「体育協会など各団体へ普及をすることで普及していく」

「認知度を上げるため、企業等に出向き出張体操を実施したり、CD、DVDを配布する」

「何のためにこの体操をするのか易しく伝える」

<地域ボランティア>

多団体、機関との連携の必要性をはじめ、具体的な取り組みに対する主体的意見が多く聞かれるようになってきました。

「サポーターを増やし、普及活動に協力してくださる方をいろんな世代で増やしていきたい。そういう住民を巻き込んでいけば広がりが増えると思う」

「食生活改善推進員やスポーツ推進委員、生涯学習推進員と一緒にやっており、さらにうまく連携していけるようにしていくとよい」

⑤ 考察

継続的なオリジナル体操普及活動を通して、一般参加者、地域ボランティア双方から具体的な普及活動に対する展望が聞かれました。今後とも住民主体の体操の普及継続により、役割遂行による充実感や責任感を生み、地域ボランティアがチームとして住民間をつなぐ役割を担っていくことが求められます。

3. 「すこやかカレンダー」「広報とびしま」記事一覧

すこやかカレンダー				
年度	月	テーマ	区分	
			疾病の発症・重症化予防	生活習慣
27年度	4月	今年は受けよう！健康診断（特定健診・がん検診）	がん	
	6月	歯周病は万病の素	歯科疾患	歯・口腔の健康
	9月	ご存じですか？CKD（慢性腎臓病）		
	10月	生活に「・・・ながら運動」を取り入れましょう！		身体活動・運動
	12月	ヒートショック	循環器	
	12月	アルコールの適量		飲酒
	1月	受動喫煙	がん	喫煙
	3月	こころの病気の初期サイン		休養・こころの健康
28年度	4月	健康診断（特定健診・がん検診）	がん	
	4月	母と娘で受けよう！子宮がん検診	がん	
	5月	今日から始める！血糖コントロール	糖尿病	
	6月	かかりつけ歯科医で定期検診を！！	歯科疾患	歯・口腔の健康
	9月	血圧は身体からの大切なサインです！	循環器	
	10月	プラス10分の運動で健康寿命をのばしましょう		身体活動・運動
	11月	肝臓にやさしいお酒とのつきあい方		飲酒
	12月	あと一皿、野菜を食べよう！		栄養・食生活
	1月	肺の生活習慣病 COPDにご注意！	COPD	
	1月	お酒は適量を守りましょう！		飲酒
29年度	3月	睡眠は、「からだ」と「こころ」の健康の源		休養・こころの健康
	4月	がんにならないための生活習慣を心がけよう！	がん	
	5月	「糖尿病が強く疑われる人」男性では5人に1人、女性では10人に1人	糖尿病	
	6月	出ていますか お口のセルフケア！？	歯科疾患	歯・口腔の健康
	9月	血圧のコントロールは万病予防の第1歩	循環器	
	10月	「ロコモティブシンドローム」ってなに？		身体活動・運動
	10月	今年の検診は今年のうちに！（精検勧奨）	がん	
	11月	あなたの飲酒量は適量？飲みすぎ？		飲酒
	11月	未成年の飲酒をゼロに！		飲酒
	12月	塩分控えめ 気を付けていますか？		栄養・食生活
	1月	COPD（慢性閉塞性肺疾患）＝「たばこ病」	COPD	
	1月	禁煙しようと思ったあなたへ	がん	喫煙
3月	質の良い睡眠でこころの病気予防		休養・こころの健康	

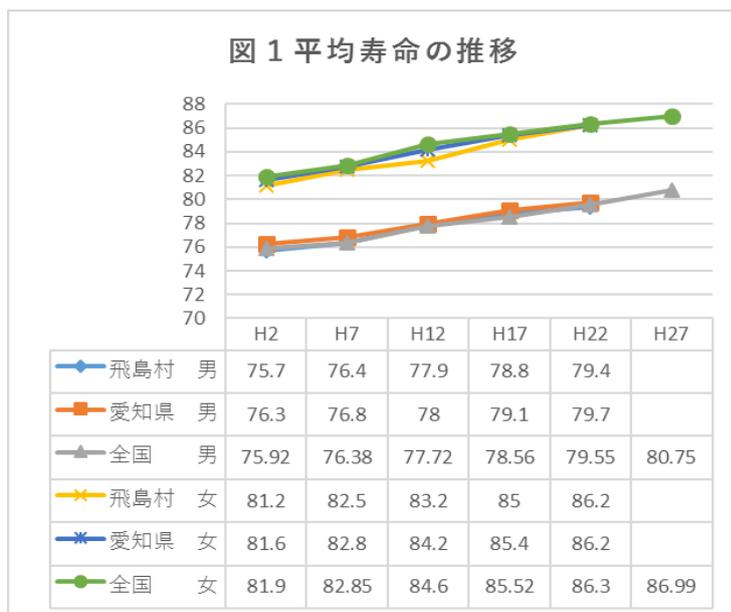
広報（保健センターだより）				
年度	月	テーマ	区分	
			疾病の発症・重症化予防	生活習慣
27年度	4月	増え続けるがん死亡者	がん	
	5月	お口のお手入れ	歯科疾患	歯・口腔の健康
	6月	一日3回、野菜を貯めていますか？		栄養・食生活
	7月	COPD（慢性閉塞性肺疾患）をご存じですか？	COPD	
	8月	今年のがん検診は受けましたか？	がん	
	9月	あなたも家族も、良い生活習慣を続けていますか？		栄養・食生活 身体活動・運動
	10月	インフルエンザ予防接種及び費用一部助成のご案内	—	—
	11月	子どもの将来の健康を家族の健康から考えよう！	循環器	
	12月	歯や歯肉の治療、入れ歯の点検はお早目に 飛鳥村健康づくり食生活改善協議会からのお知らせ	歯科疾患	
	1月	たばこの煙から子供を守ろう	がん	喫煙
	2月	「眠れない」は要注意！それは「うつ」のサインかもしれません。		休養・こころの健康
	3月	シルバーフィットネス参加者募集、食改養成教室案内	—	—
	28年度	4月	今年も受けよう！がん検診	がん
5月		知っているようで知らない 舌について～口腔機能	歯科疾患	歯・口腔の健康
6月		みんなで一緒に楽しい食事 6月は食育推進月間です		栄養・食生活
7月		熱中症は、命の危険を伴います！	—	—
8月		今年のがん検診は受けましたか？	がん	
9月		血糖値が高めの方は要注意！	糖尿病	
10月		インフルエンザ予防接種及び費用一部助成のご案内	—	—
11月		今日から始める！ウォーキングのキホン		身体活動・運動
12月		報告 妊婦及び乳幼児向け大規模災害時避難訓練	—	—
1月		子どもの検診結果から、家族の生活習慣を考える	循環器	
2月		心の健康—ストレスと上手に付き合いましょー		休養・こころの健康
3月		シルバーフィットネス参加者募集、食改養成教室案内	—	—
29年度		4月	がんは身近な病気です	がん
	5月	お口のお手入れ	歯科疾患	歯・口腔の健康
	6月	6～9月は「飛鳥村健康推進月間」です 「がん検診」「歯科基本健康診査」は受けましたか？ 「とびしま健康マイレージ」が始まります	がん	
	7月	蚊を媒介とする感染症にご注意ください！！	—	—
	8月	今年のがん検診は受けましたか	がん	
	9月	食事をおいしく、バランスよく		栄養・食生活
	10月	生活習慣改善のきっかけに！生活応援教室参加者募集	—	—
	11月	子どもの将来の健康が危ない！家族の生活習慣を見直そう	循環器	
	12月	健康マイレージ ～中間報告～	—	—
	1月	正月太りにご注意ください”今から”始めるお手軽筋トレ	—	身体活動・運動
	2月	心の健康づくり—あなたの「こころ」元気ですか	—	休養・こころの健康
	3月	シルバーフィットネス参加者募集、食改養成教室案内	—	—

4. 飛島村民の健康等の状況

○平均寿命

	平成 2 年	平成 12 年	平成 22 年
男性	75.7 歳	77.9 歳 (+2.2 歳)	79.4 歳 (+1.5 歳)
女性	81.2 歳	83.2 歳 (+2.0 歳)	86.2 歳 (+3.0 歳)

資料：市区町村別生命表（厚生労働大臣官房統計情報部）

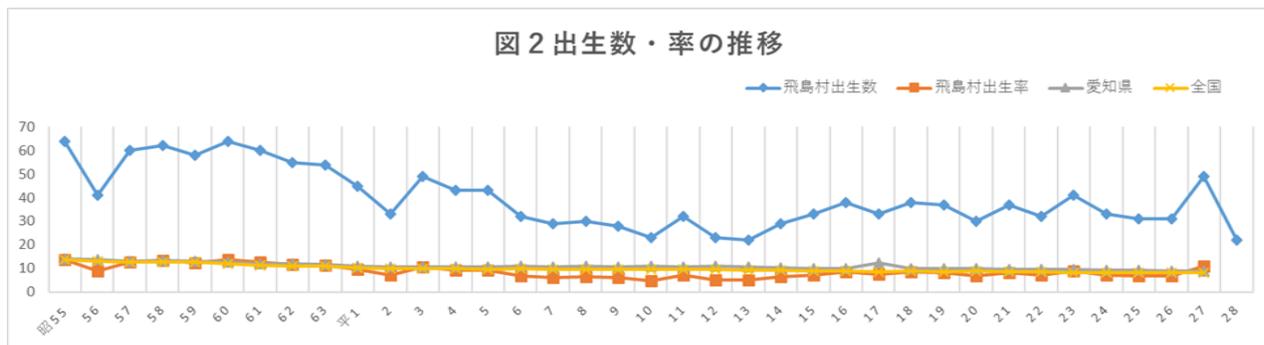


注：全国は完全生命表による。

○少子化

	昭和 55 年	平成 12 年	平成 22 年	平成 27 年
出生数	64 人	23 人	32 人	49 人
出生率	13.6	5.1	7.1	11.1
全国出生率	13.6	9.5	8.5	8.0

資料：津島保健所事業概要

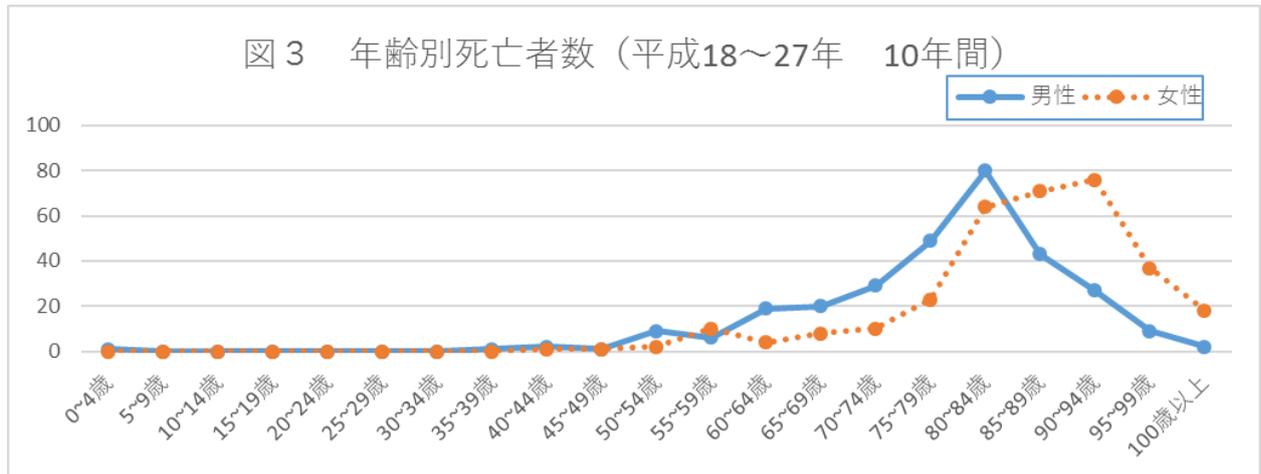


○高齢化

		平成2年	平成12年	平成22年	平成28年
飛島村	人口	4,668人	4,547人	4,491人	4,386人
	65歳以上	644人 (13.8%)	914人 (20.1%)	1,119人 (24.9%)	1,287人 (29.3%)
	そのうち 75歳以上	269人 (5.8%)	414人 (9.1%)	598人 (13.3%)	626人 (14.3%)
愛知県	65歳以上		(14.5%)	(20.3%)	(24.1%)
	そのうち 75歳以上		(5.6%)	(8.9%)	(10.9%)

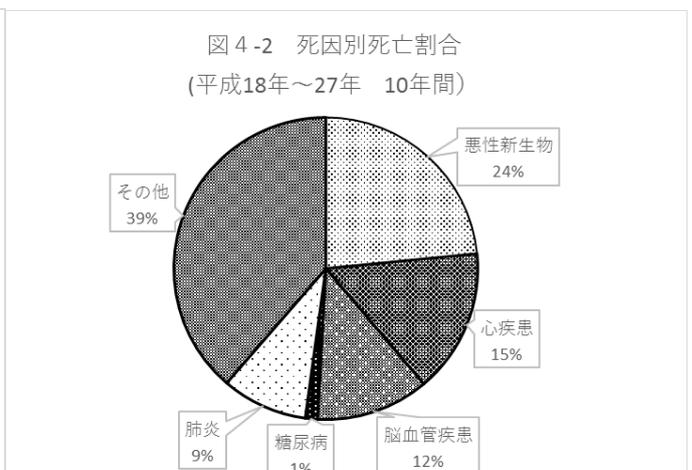
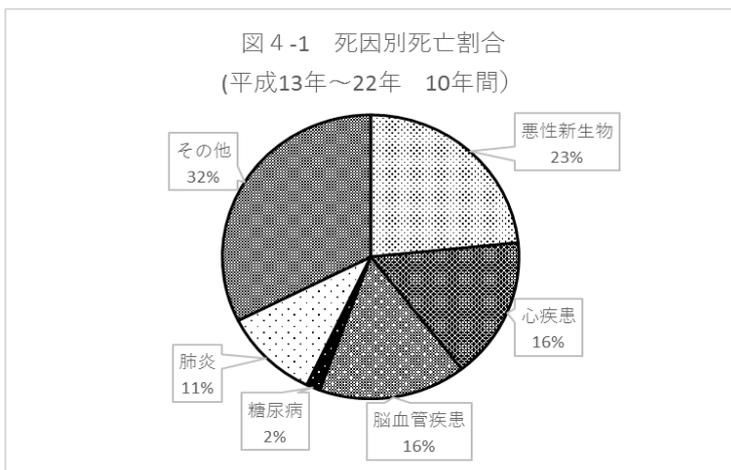
()は人口に対する割合
資料：飛島村の保健「あゆみ」

○年齢階層別死亡数



資料：愛知県衛生年報

○三大生活習慣病の死亡割合

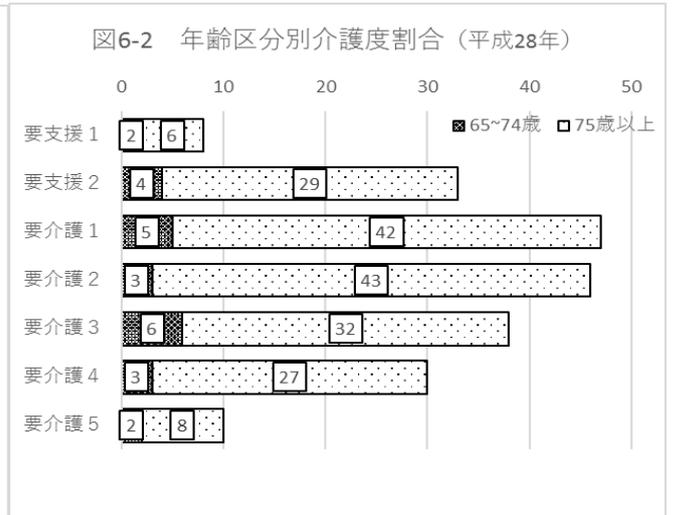
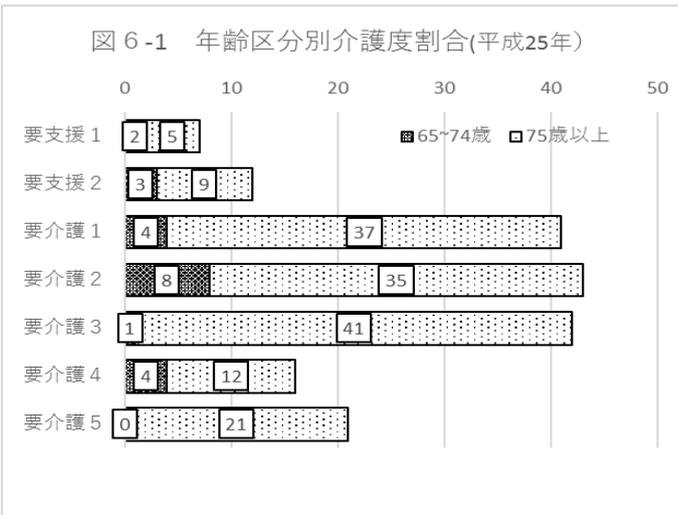


資料：津島保健所事業概要

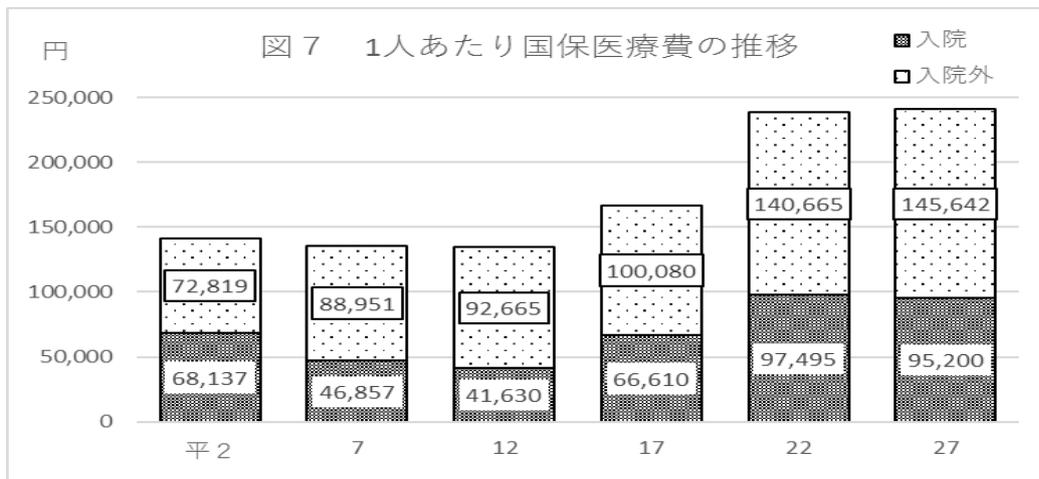
○要介護・要支援認定者

	第1号 被保険者数		認定者数				国の現状値	
	25年	28年	25年	被保険者 に対する 割合	28年	被保険者 に対する 割合	25年	28年
総数	1,135人	1,234人	182人	16.0%	212人	17.2%	17.7%	18.0%
そのうち、65～ 74歳（ ）は総 数に対する割合	567人 (50.0%)	645人 (52.3%)	22人 (12.1%)	3.9%	25人 (11.8%)	3.9%	4.4%	4.3%
そのうち、75歳 以上（ ）は総 数に対する割合	568人 (50.0%)	589人 (47.7%)	160人 (87.9%)	28.2%	187人 (88.2%)	31.7%	31.5%	32.5%

資料：該当年4月厚生労働省 「介護保険事業状況報告」



○医療費



資料：飛島村の保健「あゆみ」

図 8-1 大分類別医療費（入院）

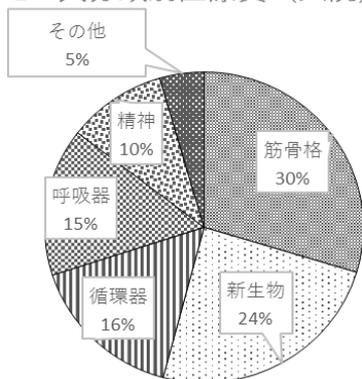
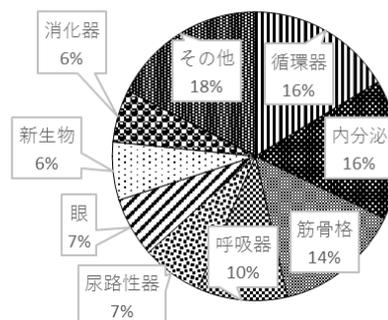


図 8-2 大分類医療費（外来）



資料：国保データベースシステム（平成 28 年 4 月）

医療費（入院＋外来） 全体に対する割合

1 位	関節疾患	16.5%	6 位	慢性腎不全 (透析あり)	3.1%
2 位	糖尿病	6.8%	7 位	脂質異常症	3.0%
3 位	高血圧症	6.3%	8 位	緑内障	2.4%
4 位	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	4.0%	9 位	肺炎	1.7%
5 位	統合失調症	3.5%	10 位	うつ病	1.7%

資料：国保データベースシステム（平成 28 年 4 月）

5. 施策の各指標の評価一覧

- ・今回の中間評価では平成26年最終値をベースライン値として使用します。
- ・項目によっては、欠損値処理法の変更等によりH26計画策定時からベースライン値が変更されているものもあります。
- ・ベースライン値の変更等により目標値を変更したものは、目標値に*を記しています。
- ・直近値のデータ年次は第3章参照

	指標		ベースライン (H26 最終値)	直近値	目標値	判定	
基本目標	要介護認定(要介護度2～5)を受けていない人	第1号保険者	89.3%	90.0%	増加傾向	C	
基本方針	健康に気を付けている人	20歳以上	81.4%	81.1%	85.0%	C	
がん	市町村別標準化死亡率(平成18～22年)	男性	95.8%	97.8%	90.0%以下	C	
	市町村別標準化死亡率(平成18～22年)	女性	94.6%	95.0%	90.0%以下	C	
	子宮がん検診受診率		39.9%	42.5%	50.0%	B	
	乳がん検診受診率		48.6%	54.2%	60.0%	C	
	定期的にがん検診を受けている人の割合	30～59歳	52.3%	54.8%	60.0%	B	
		60歳以上	54.3%	53.6%	*60.0%	C	
	胃がん検診の精検受診率の向上		76.6%	70.9%	95.0%	D	
	大腸がん検診精検受診率の向上		55.6%	57.1%	90.0%	C	
	たばこを吸っている人の割合の減少	20～59歳	全体	18.5%	18.5%	15.0%以下	C
			男性	33.0%	31.9%	28.0%以下	B
			女性	5.1%	5.7%	5.0%以下	C
		60歳以上	全体	14.1%	13.4%	13.0%以下	B
			男性	26.8%	25.0%	24.0%以下	B
			女性	2.6%	2.5%	*2.5%以下	A
	たばこを習慣的に吸っている人の割合の減少	全体	16.2%	15.4%	13.0%以下	B	
		男性	27.7%	27.7%	24.0%以下	C	
		女性	5.0%	4.1%	5.0%以下	A	
	がんにならないために心がけている人の増加	20～59歳	全体	25.7%	28.9%	50.0%	B
			男性	20.0%	23.1%	40.0%	B
			女性	31.3%	34.5%	60.0%	B
循環器	市町村別標準化死亡率	男性	93.3	96.3	90.0以下	C	
		女性	112.5	110.6	100.0以下	C	
	市町村別標準化死亡率	男性	98.4	92.5	90.0以下	B	
		女性	98.4	101.2	90.0以下	C	
	I度高血圧以上の人の割合		22.7%	16.1%	18.0%以下	A	
	LDL 140以上の割合		21.3%	24.2%	18.0%以下	C	
	メタボ該当者	男性	22.1%	22.3%	18.0%以下	C	
		女性	9.2%	11.2%	8.0%以下	D	
	メタボ該当者予備群	男性	16.5%	17.3%	16.0%以下	D	
		女性	5.0%	7.0%	5.0%以下	D	
特定健康診査の受診率向上	全体	51.1%	54.6%	60.0%以上	B		
	男性	49.3%	53.0%	60.0%以上	B		
	女性	53.1%	56.1%	60.0%以上	B		

	指標		ベースライン (H26 最終値)	直近値	目標値	判定	
循環器	特定保健指導の実施率の向上	全体	11.1%	26.2%	60.0%以上	B	
		男性	7.3%	18.8%	60.0%以上	B	
		女性	23.1%	50.0%	60.0%以上	B	
	脳ドック検診の精検受診率		66.7%	16.7%	90.0%以上	—	
	塩分を控えめにしている人	20～59歳	19.0%	18.5%	* 20.0%	C	
		60歳以上	41.1%	39.5%	* 42.0%	C	
	脂肪の多い食品を控えめにしている人	20～49歳	男性	41.6%	38.9%	50.0%	C
		20～39歳	女性	63.2%	57.9%	70.0%	D
	何か運動していますか	12～19歳		78.6%	84.2%	85.0%	—
		20～59歳		57.0%	43.9%	66.0%	—
		60歳以上		55.9%	55.6%	66.0%	—
	1日30分以上軽く汗をかく運動を週2日以上1年以上実施	男性		29.0%	31.4%	43.0%	B
		女性		18.8%	26.9%	38.9%	B
	循環器疾患にならないよう心掛けている人	20～59歳	全体	21.7%	21.5%	30.0%	C
男性			17.0%	16.1%	25.0%	C	
女性			25.9%	26.5%	35.0%	C	
血圧測定を行う事業回数		3回	4回	5回	B		
糖尿病	糖尿病性腎症による新規透析導入者		44.4%	—	40.0%以下	判定保留	
	HbA1c 6.5以上の割合		8.8%	13.8%	8.0%以下	D	
	HbA1c 6.5以上の治療中の人の割合		63.6%	71.6%	75.0%以上	B	
	HbA1c 8.4以上の治療中の人の割合		3.8%	8.5%	3.5%以下	D	
	メタボ該当者の減少（再掲）	男性		22.1%	22.3%	18.0%以下	C
		女性		9.2%	11.2%	8.0%以下	D
	メタボ予備群の減少（再掲）	男性		16.5%	17.3%	16.0%以下	D
		女性		5.0%	7.0%	5.0%以下	D
	肥満者の割合	40～74歳	男性	30.3%	28.6%	27.0%	C
			女性	20.1%	23.1%	18.0%	C
	特定健康診査の受診率	全体		51.1%	54.6%	60.0%以上	B
		男性		49.3%	53.0%	60.0%以上	B
		女性		53.1%	56.1%	60.0%以上	B
	特定保健指導の終了率	全体		11.1%	26.2%	60.0%以上	B
		男性		7.3%	18.8%	60.0%以上	B
		女性		23.1%	50.0%	60.0%以上	B
糖尿病にならないために心掛けている人	20～59歳	全体	29.9%	30.9%	50.0%	C	
		男性	24.3%	24.8%	45.0%	C	
		女性	35.2%	36.9%	55.0%	C	

	指標		ベースライン (H26 最終値)	直近値	目標値	判定	
糖尿病	栄養のバランスに気を付けている人	12～19歳	63.4%	61.6%	70.0%	C	
		20～59歳	76.8%	78.5%	80.0%	B	
	何か運動をしていますか	12～19歳	78.6%	84.2%	85.0%	—	
		20～59歳	57.0%	43.9%	66.0%	—	
		60歳以上	55.9%	55.6%	66.0%	—	
	1日30分以上軽く汗をかく運動を週2日以上1年以上実施	男性	29.0%	31.4%	43.0%	B	
		女性	18.8%	26.9%	38.9%	B	
COPD	たばこを吸っている人の割合の減少	20～59歳	全体	18.5%	18.5%	15.0%以下	C
			男性	33.0%	31.9%	28.0%以下	B
			女性	5.1%	5.7%	5.0%以下	C
		60歳以上	全体	14.1%	13.4%	13.0%以下	B
			男性	26.8%	25.0%	24.0%以下	B
			女性	2.6%	2.5%	*2.5%以下	A
	たばこを習慣的に吸っている人の割合の減少	全体	16.2%	15.4%	13.0%以下	B	
		男性	27.7%	27.7%	24.0%以下	C	
		女性	5.0%	4.1%	5.0%以下	A	
	COPDという病気があることを知っている人	全体	6.5%	7.6%	80.0%	C	
		20～59歳	7.2%	9.2%	80.0%	C	
		60歳以上	5.7%	5.8%	80.0%	C	
	COPDについて掲載記事の回数			2回	3回	5回	B
喫煙対策の必要があると思う人の割合	12～19歳	74.2%	77.1%	90.0%	B		
	20～59歳	70.9%	74.7%	90.0%	B		
	60歳以上	57.9%	76.5%	75.0%	A		
歯科疾患	80歳（75歳～84歳）の健口体操の実施者		15.3%	21.2%	35.0%以上	A	
	80歳（75歳～84歳）の咀嚼良好者	いきいき健口教室調査	74.4%	96.3%	80.0%以上	A	
		咀嚼力判定ガム調査	84.6%	92.8%	90.0%以上	A	
	年1回以上歯科を受診している	30歳代	52.5%	53.8%	60.0%以上	B	
		70歳代	71.3%	70.6%	80.0%以上	C	
	う蝕のない者の割合	3歳	94.6%	96.9%	95.0%以上	A	
		12歳	83.9%	90.5%	90.0%以上	A	
	歯肉に炎症所見を有する割合	12歳	7.3%	4.8%	5.0%以下	A	
歯周炎を有する者の割合	40歳	11.0%	23.3%	10.0%以下	D		
栄養・食生活	40～74歳の肥満者の割合	男性	30.3%	28.6%	27.0%	C	
		女性	20.1%	23.1%	18.0%	C	
	中等度・高度肥満傾向児の割合	小学生	3.5%	3.3%	3.0%	B	
		中学生	5.3%	1.7%	3.0%	A	

	指標		ベースライン (H26 最終値)	直近値	目標値	判定
栄養・食生活	野菜をほとんど食べない人の減少	1～6歳	4.3%	1.3%	2.0%以下	A
		小学生	2.4%	0.9%	2.0%以下	A
		12～19歳	8.1%	3.2%	2.0%以下	B
		20～59歳	2.1%	2.3%	2.0%以下	C
		60歳以上	3.8%	3.1%	2.0%以下	B
	朝食を毎日食べている人	小学生	97.6%	97.2%	98.0%以上	C
		12～19歳	88.7%	91.6%	90.0%	A
		20～59歳	81.5%	79.4%	85.0%	C
	塩分を控えめにしている人	20～59歳	19.0%	18.5%	* 20.0%	C
		60歳以上	41.1%	39.5%	* 42.0%	C
	脂肪の多い食品を控えめにしている人	20～49歳 男性	41.6%	38.9%	50.0%	C
		20～39歳 女性	63.2%	57.9%	70.0%	D
	健康の維持・増進につながる食事に 関心がある人	20～29歳	70.9%	74.5%	80.0%以上	B
		30～39歳	83.0%	75.9%	80.0%以上	D
		40～49歳	77.1%	76.2%	80.0%以上	C
		50～59歳	78.1%	80.8%	80.0%以上	A
60歳以上		81.8%	78.3%	80.0%以上	C	
栄養のバランスに気を付けている人	12～19歳	63.4%	61.6%	70.0%	C	
	20～59歳	76.8%	78.5%	80.0%	B	
食生活改善推進員数			16人	13人	16人以上	D
食育推進会議の開催			1回	2回	1回以上	A
身体活動・運動	何か運動をしていますか	12～19歳	78.6%	84.2%	85.0%	—
		20～59歳	57.0%	43.9%	66.0%	—
		60歳以上	55.9%	55.6%	66.0%	—
	1回30分以上軽く汗をかく運動 週2回以上1年以上	男性	29.0%	31.4%	43.0%	B
		女性	18.8%	26.9%	38.9%	B
	日ごろから健康維持増進のために 意識的に身体を動かすように 心がけていますか	12～19歳	75.1%	73.7%	85.0%	C
		20～59歳	75.0%	72.0%	85.0%	C
		60歳以上	79.9%	78.6%	85.0%	C
	1日におよそ何分くらい歩いて いますか	12～19歳	58分	55分	95分	C
		20～59歳	54分	51分	85分	C
		60歳以上	46分	47分	65分	C
	日常生活において歩行または同等 の身体活動を1日1時間以上の実施	男性	34.2%	41.4%	50.0%	A
		女性	36.8%	46.3%	50.0%	A
体力がある方だと思う	小学生	65.1%	66.5%	75.0%	B	
	12～19歳	51.5%	54.7%	75.0%	B	

	指標		ベースライン (H26 最終値)	直近値	目標値	判定	
身体活動・運動	体力チェックを実施している人		676人	680人	900人	C	
	この1年間で転んだことがありますか	全体	15.5%	—	16.0%	—	
		男性	13.4%	—	13.5%	—	
		女性	17.5%	—	17.5%	—	
	昨年と比べて外出の機会が減っていますか	全体	12.9%	—	13.0%	—	
		男性	10.8%	—	11.0%	—	
女性		14.9%	—	15.0%	—		
休養・こころ	睡眠で十分な休養が取れていない人	20～59歳	男性	24.5%	24.7%	20.0%以下	C
			女性	24.5%	25.3%	20.0%以下	C
	自殺者のうち10代の割合			0.0%	0.0%	0.0%	A
	午後10時以降に就寝する子どもの割合			28.9%	2.9%	20.0%以下	A
	ストレス解消法のない人	20～59歳		3.7%	3.7%	*3.5%以下	C
	ゆったりとした気分で子どもとすごせる			72.2%	79.4%	85.0%以上	B
	エジンバラ産後うつ質問票9点以上			3.8%	0.0%	3.0%以下	A
	関係機関の連携会議数			4会議	5会議	現状維持	A
喫煙	たばこを吸っている人の割合の減少(再掲)	20～59歳	全体	18.5%	18.5%	15.0%以下	C
			男性	33.0%	31.9%	28.0%以下	B
			女性	5.1%	5.7%	5.0%以下	C
		60歳以上	全体	14.1%	13.4%	13.0%以下	B
			男性	26.8%	25.0%	24.0%以下	B
			女性	2.6%	2.5%	*2.5%以下	A
	たばこを習慣的に吸っている人の割合	全体		16.2%	15.4%	13.0%以下	B
		男性		27.7%	27.7%	24.0%以下	C
		女性		5.0%	4.1%	5.0%以下	A
	妊娠中の喫煙率の減少			0.8%	0.0%	0.0%	A
	子育て中の過程における同居家族の喫煙者の割合	3・4か月	父親	37.7%	40.0%	25.0%以下	—
			母親		0	0.0%	—
		1歳6か月	父親	43.9%	32.6	25.0%以下	—
			母親		2.3	0.0%	—
		3歳	父親	51.2%	26.5	25.0%以下	—
母親			2.9		0.0%	—	
12～19歳の喫煙者の割合			0.0%	0.0%	現状維持	A	
喫煙対策の必要性があると思う人の割合	12～19歳		74.2%	77.1%	90.0%	B	
	20～59歳		70.9%	74.7%	90.0%	B	
	60歳以上		57.9%	76.5%	75.0%	A	
「生涯吸うべきではない」と考える人の割合			58.9%	56.0%	80.0%以上	C	
禁煙に関する掲載記事の回数			2回	4回	4回以上	A	

	指標		ベースライン (H26 最終値)	直近値	目標値	判定	
飲酒	ほぼ毎日飲酒している人	20～59歳	男性	27.7%	26.2%	20.0%	B
			女性	8.1%	9.1%	8.0%以下	C
		60歳以上	男性	38.6%	38.7%	30.0%	C
			女性	6.30%	6.70%	6.0%以下	C
	多量飲酒者の割合（2合以上）			15.6%	15.9%	10.0%以下	C
		20～59歳	男性	14.5%	15.8%	10.0%以下	C
			女性	6.4%	5.0%	3.0%以下	B
		60歳以上	男性	11.2%	13.4%	8.0%以下	C
	女性		4.6%	1.3%	3.0%以下	A	
	12～19歳の飲酒者の割合	12～19歳	男性	1.1%	1.2%	0.0%	C
			女性	3.1%	0.0%	0.0%	A
	妊娠中、あなたは飲酒していましたか			0.0%	0.0%	0.0%	A
	20歳までは飲むべきでないと考える人	12～19歳	男性	69.1%	83.3%	80.0%	A
女性			88.0%	82.5%	95.0%	D	
飲酒が健康に及ぼす影響の情報提供の回数			4回	5回	5回以上	A	
適正な飲酒量についての情報提供の回数			3回	4回	4回以上	A	
歯・口腔 の健康	仕上げ磨きをしている人の割合		80.6%	95.3%	90.0%以上	A	
	1日に2回以上歯磨きする人の割合	小学生	90.9%	92.1%	95.0%以上	B	
		12～19歳	76.0%	81.3%	80.0%以上	A	
	歯間補助道具を使用する人の増加	小学生	29.3%	28.0%	現状より10%以上増加	C	
		12～19歳	35.2%	35.9%		C	
		20～29歳	29.9%	36.7%		B	
	歯磨剤（フッ化物配合）の使用の増加	0～6歳	77.4%	68.2%	85.0%以上	D	
	年1回以上歯科を受診しているもの	30歳代	52.5%	53.8%	60.0%以上	C	
70歳代		71.3%	70.6%	80.0%以上	C		
社会で支 える健康 づくり	相談相手がいる人	20～39歳	96.4%	96.2%	98.0%以上	C	
		40～59歳	95.1%	95.1%	98.0%以上	C	
		60歳以上	92.8%	92.8%	98.0%以上	C	
	いざという時助けてくれる人がある人	20～39歳	97.3%	95.4%	98.0%以上	C	
		40～59歳	95.6%	94.7%	98.0%以上	C	
		60歳以上	93.6%	94.0%	98.0%以上	C	
	地域活動に参加している人	20～39歳	24.8%	20.6%	30.0%	C	
		40～59歳	33.6%	32.6%	35.0%	C	
		60歳以上	56.9%	56.8%	60.0%	C	

6. 健康とびしま21計画策定委員会（保健対策推進協議会）委員名簿

役名	氏名	備考
会長	荒川直之	医師
副会長	久野時男	村長
委員	片岡博喜	津島保健所長
委員	鈴木康祐	文教厚生委員長
委員	太田啓介	医師
委員	松久勝彦	歯科医師
委員	柳紀代子	薬剤師
委員	津森隆	区長会代表
委員	中山幸雄	社会福祉協議会長
委員	早川忠孝	副村長
委員	平野美由紀	民生部長
委員	羽佐田里美	住民課長
委員	下里正	敬老センター所長

健康とびしま21計画策定委員会 スーパーバイザー

飛島村 日本一健康長寿村 研究会	安梅勅江教授	筑波大学医学医療系
------------------------	--------	-----------